

SYLLABUS

2024



別府市医師会立別府青山看護学校

3年課程

専門基礎分野

授業計画

専門基礎分野は、人体の構造と機能、疾病の成り立ち、回復の促進、健康支援と社会保障制度に分類し、総計 21 科目（22 単位）で構成します。人体の構造と機能では、看護学の観点から人体の構造や生命を維持するためのしくみを系統的に理解します。また、看護における観察力や判断力につなげるため、疾病の成り立ち・回復の促進では健康・疾病・障害・生活に関する基本的知識を身につけます。健康支援と社会保障制度では、人々が健康や障害の状態に応じて社会資源を活用しながら生活していくことを支援するため、保健・医療・福祉に関する基本的な知識を身につけます。また、臨床心理では、基礎分野で学習した人間関係論の知識を活用しながら援助的人間関係を築くための方法を学び、人々の健康を支援するために欠かせない専門的コミュニケーションの技術を養うための基盤をつくります。

科目区分	専門基礎分野	科目名	解剖生理学 I	単 位	1 単位
対象学年	1 学年	学 期	前期	時 間	30 時間
担当教員	小林 恭子	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	解剖生理学では、疾病・病態等を学ぶ上での重要な基礎となるだけでなく、看護実践の科学的根拠となりうるため 人体の基本的な成り立ちを学ぶ。				
目 標	1. 正常な人体の構造と機能の基礎を理解する。 2. フィジカルアセスメントおよび基本看護技術に必要な人体の構造と機能を理解する。 3. 疾病の成り立ちを学ぶために必要な人体の構造と機能を理解する。				DP への対応 DP3
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準備学習
第 1 回 第 2 回 〔講義〕	到達目標	解剖生理学の基礎知識を理解する		テキスト P2～53	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 人体の構造と機能を学ぶ目的を説明する。 3. 細胞の構造と機能について説明する。 4. 人体の階層性について説明する。 5. 分化した細胞がつくる組織の種類や機能について説明する。			
第 3 回 第 4 回 第 5 回 〔講義〕	到達目標	消化器系の構造と機能を理解する。		テキスト P58～93	消化器系の病 態生理は、症 候論Ⅱで学習 する
	授業予定	1. 咀嚼・嚥下を司る部位の構造と機能について説明する。 2. 腹部消化管の構造と機能について説明する。 3. 肝臓・胆嚢・膵臓・腹膜の構造と機能について説明する。			
第 6 回 第 7 回 〔講義〕	到達目標	呼吸器系の構造と機能を理解する。		テキスト P97～123	呼吸器系の病 態生理は、症 候論Ⅰで学習 する
	授業予定	1. 呼吸器の構造について説明する。 2. 呼吸運動について説明する。 3. ガス交換とガスの運搬について説明する。 4. 呼吸運動の調節について説明する。			
第 8 回 〔講義〕	到達目標	血液の成分と機能について理解する。		テキスト P126～147	血液・造血管 系の病態生理 は、症候論Ⅰ で学習する
	授業予定	1. 血液の組成と機能について説明する。 2. 血漿タンパク質と赤血球沈降速度について説明する。 3. 血液の凝固と線維素溶解について説明する。 4. 血液型について説明する。			
第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 〔講義〕	到達目標	循環器系の構造と機能を理解する。		テキスト P150～207	循環器系の病 態生理は、症 候論Ⅰで学習 する
	授業予定	1. 心臓の構造と機能について説明する。 2. 心臓の拍出機能について説明する。 3. 末梢循環系の構造と機能について説明する。 4. 特殊な循環について説明する。 5. 血液の循環調節のしくみについて説明する。			
第 13 回 第 14 回 〔講義〕	到達目標	腎泌尿器系の構造と機能を理解する。		テキスト P211～228	腎泌尿器系の 病態生理は、 症候論Ⅰで学 習する
	授業予定	1. 腎臓の構造と機能について説明する。 2. 排尿路の構造について説明する。 3. 尿の生成・貯蔵・排尿について説明する。 4. 体液の調整について説明する。			
第 15 回		まとめ 終講試験(50 分)			
成績評価の基準と方法		基準 : 履修規程第 28 条に規定する評価基準に準ずる。 方法 : 終講筆記試験 100%、60%未滿は再試験とする。			
使用教材	テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学:医学書院 e テキスト			
	参考図書				
	その他	ビジュランクラウド			
授業以外の学習方法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。			
履修上の留意点					

科目区分	専門基礎分野	科目名	解剖生理学Ⅱ	単位	1単位
対象学年	1学年	学 期	前期・後期	時 間	30時間
担当教員	羽田野 京子	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	解剖生理学では、疾病・病態等を学ぶ上での重要な基礎となるだけでなく、看護実践の科学的根拠となりうるため人体の基本的な成り立ちを学ぶ。				
目 標	1. 正常な人体の構造と機能の基礎を理解する。 2. フィジカルアセスメントおよび基本看護技術に必要な人体の構造と機能を理解する。 3. 疾病の成り立ちを学ぶために必要な人体の構造と機能を理解する。				DP への対応 DP3
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準備学習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	神経系の構造と機能について理解する。		テキスト	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 神経細胞と神経組織について説明する。 3. 中枢神経系の分類と機能・構造について説明する。			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	末梢神経系の構造と機能について理解する。		テキスト	
	授業内容	1. 脊髄神経と脳神経の構造と機能について説明する。 2. 脳の高次機能について説明する。			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	感覚と運動の伝導路について理解する。		テキスト	
	授業予定	1. 運動機能と下行伝導路について説明する。 2. 感覚機能と上行伝導路について説明する。 3. 痛み（疼痛）の分類と発生機序について説明する。			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	骨格・関節の形態と構造と機能について理解する。		テキスト	
	授業予定	1. 人体の骨格の構造と組成について説明する。 2. 骨の連結（関節、不動性の連結）について説明する。 3. 骨格筋の構造と作用および神経支配について説明する。			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	体幹・上肢・下肢の骨格と筋について理解する。		テキスト	
	授業予定	1. 体幹（脊柱、胸郭、背部、胸部、腹部）の骨格と筋について説明する。 2. 上肢帯（上肢帯、上腕、前腕、手）の骨格と筋群および上肢の運動について説明する。 3. 下肢帯と骨盤（下肢帯、大腿、下腿、足）の骨格と筋群および下肢の運動について説明する。			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	頭頸部の骨格と筋について理解する。 筋の収縮のしくみについて理解する。		テキスト	
	授業予定	1. 頭頸部の骨格と筋について説明する。 2. 筋の収縮機構、種類と特性について説明する。 3. 不随意筋の収縮の特徴が説明できる。			
第 7 回 〔講義〕	到達目標	感覚器系の構造と機能について理解する。		テキスト	
	授業予定	1. 眼の構造と視覚について説明する。			
第 8 回 〔講義〕	到達目標	感覚器系の構造と機能について理解する。		テキスト	
	授業予定	1. 味覚と嗅覚について説明する。 2. 耳の構造と聴覚・平衡覚について説明する。			
第 9 回 〔講義〕	到達目標	自律神経の調節について理解する。		テキスト	
	授業予定	1. 自律神経による調節について説明する。			
第 10 回 〔講義〕	到達目標	内分泌系による調節について理解する。 内分泌器官の構造とホルモンの機能を理解する。		テキスト	
	授業予定	1. 内分泌系による調節について説明する。 2. 視床下部-下垂体系の構造と機能を説明する。			

第 11 回 〔講義〕	到達目標	内分泌器官の構造とホルモンの機能を理解する。	テキスト	
	授業予定	1. 甲状腺と副甲状腺(上皮小体)の構造と機能を説明する。 2. 膵島、副腎、性腺などの構造と機能を説明する。		
第 12 回 〔講義〕	到達目標	防御機能と適応について理解する。	テキスト	
	授業予定	1. 皮膚の構造と機能について説明する。 2. 生体の防御機構について説明する。		
第 13 回 〔講義〕	到達目標	体温調節について理解する。	テキスト	
	授業予定	1. 熱の出納と体温調整について説明する。		
第 14 回 〔講義〕	到達目標	生殖器系の構造と機能について理解する。 受精と発生について理解する。	テキスト	
	授業予定	1. 男性生殖器系の構造と機能について説明する。 2. 女性生殖器系の構造と機能について説明する。 3. 受精と胎児の発生について説明する。		
第 15 回		まとめ 終講試験(50分)		
成績評価の基準と方法		基準 : 履修規程第 28 条に規定する評価基準に準ずる。 方法 : 終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学：医学書院 e テキスト		
	参考図書	ビジュランクラウド		
	その他	配布資料		
授業以外の学習方法		指定した範囲の教科書を事前に読んでおくこと。		
履修上の留意点				

科目区分	専門基礎分野	科目名	生化学	単 位	1 単位
対象学年	1 学年	学 期	前期	時 間	30 時間
担当教員	藤岡 竜太	実務経験 関連資格	別府大学短期大学部 食物栄養科 准教授		
目 的	生化学は生物を化学の視点から理解することを目指す学問である。医療の現場には、生化学によって説明される多くの現象が存在する。どのようにして医薬品が効くのか、どのようにして病気になるのか、どのようにして生命活動が維持されるのか、これらを理解するためには、生化学の知識を欠かすことはできない。ここでは、看護師として必要な生命活動に対する基礎を理解する。				
目 標	1. 生体を構成する糖質や脂質、タンパク質、核酸を中心に、構造と機能、および代謝について理解する。 2. 遺伝子における基礎知識を理解する。			DP への対応 DP 3 DP 3	
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準備学習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	細胞の構造と機能について理解する。		テキスト	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 生化学を学ぶための基礎知識について説明する。 3. 生体の化学の基礎知識について説明する。 4. 細胞の構造と機能について説明する。			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	酵素や補酵素の役割を理解する。		テキスト	
	授業内容	1. 代謝と生体のエネルギーについて説明する。 2. 酵素の基礎知識について説明する。 3. 酵素の反応速度、酵素の阻害について説明する。"			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	糖質の種類とはたらきについて理解する。		テキスト	栄養学で学んだ内容 を確認しておくとい い。
	授業予定	1. 糖質について説明する。 2. 単糖、二糖、多糖の構造と機能について説明する。			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	生体内の糖質代謝について理解する。		テキスト	栄養学で学んだ内容 を確認しておくとい い
	授業予定	1. 糖質の消化と吸収について説明する。 2. 糖質の分解や代謝について説明する。 3. 糖質代謝に関する遺伝性疾患について説明する。			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	脂質の種類とはたらきについて理解する。		テキスト	栄養学で学んだ内容 を確認しておくとい い
	授業予定	1. 脂質の構造と機能について説明する。			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	生体内の脂質代謝について理解する。		テキスト	栄養学で学んだ内容 を確認しておくとい い
	授業予定	1. 脂質の消化と吸収について説明する。 2. 脂質の分解や合成について説明する。 3. 脂質代謝に関する遺伝性疾患について説明する。			
第 7 回 〔講義〕	到達目標	タンパク質の種類とはたらきについて理解する。		テキスト	栄養学で学んだ内容 を確認しておくとい い
	授業予定	1. タンパク質、アミノ酸の構造と機能について説明する。			
第 8 回 〔講義〕	到達目標	生体内のタンパク質代謝について理解する。		テキスト	栄養学で学んだ内容 を確認しておくとい い
	授業予定	1. タンパク質の消化と吸収について説明する。 2. アミノ酸の分解や合成について説明する。			
第 9 回 〔講義〕	到達目標	生体内のポルフィリン代謝および異物代謝について理解する。		テキスト	
	授業予定	1. ポルフィリン代謝と異物代謝について説明する。			
第 10 回 〔講義〕	到達目標	遺伝子 (DNA) の構造の特徴と RNA との違いについて理解する。		テキスト	
	授業予定	1. 遺伝子の基礎知識について説明する。 2. 核酸の構造と機能および代謝について説明する。			
第 11 回	到達目標	DNA の遺伝情報について理解する。		テキスト	

〔講義〕	授業予定	1. 遺伝子の複製・修復・組換えについて説明する。		
第 12 回 〔講義〕	到達目標	遺伝子情報からタンパク質が作られるまでの流れを理解する。(1)	テキスト	
	授業予定	1. 転写の基礎知識について説明する。		
第 13 回 〔講義〕	到達目標	遺伝子情報からタンパク質が作られるまでの流れを理解する。(2)	テキスト	
	授業予定	1. 翻訳の概要とメカニズムについて説明する。 2. 翻訳後修飾について説明する。		
第 14 回 〔講義〕	到達目標	1. 正常な細胞のさまざまなシグナル伝達の過程を理解する。 2. がんの発生機序と化学療法について理解する。	テキスト	
	授業予定	1. シグナル伝達の概要と機序について説明する。 2. 内分泌の生化学的基盤について説明する。 3. がんの性質と細胞周期について説明する。 4. がん薬物療法について説明する。		
第 15 回		まとめ 終講試験(50分)		
成績評価の基準と方法		基準 : 履修規程第 28 条に規定する評価基準に準ずる。 方法 : 終講筆記試験 60% 小テスト 30% 授業態度 10% 全体で 60% 未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔2〕 生化学:医学書院 e テキスト		
	参考図書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔3〕 栄養学:医学書院 e テキスト		
	その他	配布資料、パワーポイント		
授業以外の学習方法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。		
履修上の留意点				

科目区分	専門基礎分野	科目名	病理学総論		単 位	1 単位
対象学年	1 学年	学 期	前期		時 間	15 時間
担当教員	平井 良昌	実務経験 関連資格	医師			
目 的	人体の構造と機能において正常から逸脱する場合の様々な症状・徴候のメカニズムに共通する現象を学び、疾病の原因や成り立ち、症状について理解する。また、臓器、組織、細胞の変化としての病変について学習し、疾病の成り立ちや症状を理解することで、各々の器官に生じる病気ごとの原因や病気の成り立ちなどの特徴も理解する。また、病院における病理検査について、看護師が知っておくべき最低限の知識を学ぶ。					
目 標	1. 病気の原因と、病因に基づく疾患の分類を理解できる。 2. 疾病の原因、疾病の成り立ち、進展あるいは治癒経過などを学習し、病気とは何かを理解できる 3. 人体の構造と機能において、正常から逸脱する場合の様々な症状・徴候のメカニズムに共通する現象を理解できる。 4. 病理検査について、看護師としての役割を理解できる。					DP への対応 DP3 DP3 DP3 DP3,4,5
授業回数 〔方法〕	内 容				使用教材	授業に関する 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	病理学で学ぶことを理解する。			テキスト	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 看護と病理学、病気の原因（内因、外因、公害病、医原病、職業がん）、病気の分類と病理学の学び方について説明する				
第 2 回 〔講義〕	到達目標	細胞の障害について理解する。			テキスト	
	授業内容	細胞の損傷と適応（細胞損傷の原因、適応現象（萎縮、肥大など）、細胞の死（壊死、アポトーシス）、細胞と組織の変性、組織の修復と創傷治癒障害について説明する				
第 3 回 〔講義〕	到達目標	炎症と免疫、アレルギーや自己免疫疾患、膠原病について理解する。			テキスト	
	授業予定	炎症とその分類、免疫と免疫不全、アレルギーと自己免疫疾患、移植と再生医療について説明する				
第 4 回 〔講義〕	到達目標	循環障害について理解する。			テキスト	
	授業予定	浮腫、充血とうっ血、出血、血栓症、塞栓症、虚血と梗塞、側副循環による障害、ショック、高血圧症、DICについて説明する				
第 5 回 〔講義〕	到達目標	代謝障害について理解する。			テキスト	
	授業予定	脂質代謝障害、タンパク質代謝障害、糖尿病、そのほかの代謝障害について説明する				
第 6 回 〔講義〕	到達目標	老化と死、先天異常と遺伝子異常について理解する。			テキスト	
	授業予定	個体の老化と老年症候群、加齢に伴う諸臓器の変化、個体の死と終末期医療、遺伝の生物学、先天異常、遺伝子の異常と疾患、先天異常・遺伝子異常の診断と治療について説明する				
第 7 回 〔講義〕	到達目標	腫瘍について理解する。			テキスト	
	授業予定	腫瘍の定義と分類、悪性腫瘍の広がりや影響、腫瘍の発生病理、腫瘍の診断と治療について説明する				
第 8 回	まとめ 終講試験(50 分)					
成績評価の基準と方法		基準：履修規程第 28 条に規定する評価基準に準ずる。 方法：終講筆記試験 100%、60%未滿は再試験とする。				
使用教材	テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進〔1〕病理学：医学書院 e テキスト				
	参考図書					
	その他	配布資料、パワーポイント				
授業以外の学習方法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。				
履修上の留意点						

科目区分	専門基礎分野	科目名	症候論 I	単 位	1 単位
対象学年	1 学年	学 期	前期・後期	時 間	30 時間
担当教員	小林 恭子	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	身体を構成している細胞・組織・器官の形態や生理機能に、異常な変化が生じることで引き起こされる症状や徴候を学ぶ。さらにその損なわれた生理機能を回復したり、失われた機能を補填したりするにはどうすればよいのかを考えることで、治療や看護につなげる。				
目 標	1. 各種機能障害の原因・メカニズム・種類・症状を理解する				DP への対応 DP3,5
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準備学習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	看護における症状のマネジメントについて理解する。		テキスト ①②③	呼吸器系の解剖生理学の復習をして臨む。 血液・造血器系の解剖生理学の復習をして臨む。 循環器系の解剖生理学の復習をして臨む。 体液・電解質調節機能の解剖生理学の復習をして臨む。
	授業予定	1. ガイダンス 2. 症状マネジメントと看護実践モデルについて説明する。			
第 2 回 第 3 回 〔講義〕	到達目標	呼吸器系の主な症候を理解する。		テキスト① P132～133 P139～146	
	授業内容	1. 呼吸器の構造と機能について説明する。 2. 呼吸困難・呼吸不全の原因・メカニズム・種類・症状を説明する。			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	呼吸器系の主な症候を理解する。		テキスト① P133～134 テキスト② P122～123	
	授業予定	1. 咳嗽・喀痰・喀血と病的呼吸の分類・原因・メカニズム・症状を説明する。			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	血液・造血器系の主な症候を理解する。		テキスト① P81～84	
	授業予定	1. 血液の機能と末梢循環のしくみを説明する。 2. 貧血の分類・原因・メカニズム・症状について説明する。			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	血液・造血器系の主な症候を理解する。		テキスト① P92～93 P178～179	
	授業予定	1. 出血傾向と黄疸の分類・原因・メカニズム・症状について説明する。			
第 7 回 〔講義〕	到達目標	循環器系の主な症候を理解する。		テキスト① P111～113 123	
	授業予定	1. 心臓の構造と機能を説明する。 2. 心不全の原因・メカニズム・症状について説明する。 (チアノーゼを含む)			
第 8 回 〔講義〕	到達目標	循環器系の主な症候を理解する。		テキスト① P102～105	
	授業予定	1. 心臓の拍出機能と心電図について説明する。 2. 不整脈の分類・メカニズム・症状について説明する。			
第 9 回 〔講義〕	到達目標	循環器系の主な症候を理解する。		テキスト① P117～118	
	授業予定	1. 血圧調節と末梢循環の仕組みについて説明する。 2. ショックの分類・原因・メカニズム・症状について説明する。			
第 10 回 〔講義〕	到達目標	体液調節における主な症候を理解する。		テキスト② P203	
	授業予定	1. 体液の調節機能について説明する。 2. 浮腫の分類・原因・メカニズム・症状について説明する。			
第 11 回 〔講義〕	到達目標	体液調節における主な症候を理解する。		テキスト① P65	
	授業予定	1. 脱水の分類・原因・メカニズム・症状について説明する。			
第 12 回 〔講義〕	到達目標	体液調節における主な症候を理解する。		テキスト① P65～769 P73～75	
	授業予定	1. 電解質の調整機能について説明する。 2. 電解質異常の分類・原因・メカニズム・症状について説明する。 3. 酸塩基平衡の異常について説明する。			
第 13 回	到達目標	腎泌尿器系の主な症候を理解する。		テキスト①	腎泌尿器系の

〔講義〕	授業予定	1. 腎泌尿器の構造と機能について説明する。 2. 排尿障害の分類・原因・メカニズム・症状について説明する。	P200～204 テキスト② P229～230	解剖生理学の復習をして臨む。
第 14 回 〔講義〕	到達目標	各症候が生活に及ぼす影響と必要な看護を考える。		事前に課題に取り組む。
	授業予定	各症候の病態生理の復習と、生活に及ぼす影響を考える。また、どのような看護が必要か、グループワークなどで深める。		
第 15 回		まとめ 終講試験(50分)		
成績評価の基準と方法		基準：履修規程第 28 条に規定する評価基準に準ずる。 方法：終講筆記試験 80%、課題 20%。60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進〔2〕病態生理学：医学書院 e テキスト ②系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学：医学書院 e テキスト ③系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔1〕成人看護学総論：医学書院 e テキスト		
	参考図書	緊急度・重症度から見た症状別看護過程：医学書院 e ナーストレーナー 看護過程に沿った対症看護：Gakken		
	その他	配布資料		
授業以外の学習方法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。		
履修上の留意点				

科目区分	専門礎分野	科目名	症候論II	単 位	1単位
対象学年	1学年	学 期	前期・後期	時 間	30時間
担当教員	羽田野 京子	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	身体を構成している細胞・組織・器官の形態や生理機能に、異常な変化が生じることで引き起こされる症状や徴候を学ぶ。さらにその損なわれた生理機能を回復したり、失われた機能を補填するにはどうすればよいのかを考えることで、治療や看護につなげる。				
目 標	1. 各種機能障害の原因・メカニズム・種類・症状を理解する				DP への対応 DP3,5
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準備学習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	高体温・低体温の原因・メカニズム・種類・症状を理解する。		テキスト① テキスト② テキスト③ ワークシート	①体温とその調節 について復習して 臨む。
	授業予定	1. 体温調節の仕組みについて説明する。 2. 高体温・低体温の定義、メカニズムと随伴症状について説明する。 3. 高体温・低体温のある患者の訴えと生活に及ぼす影響について考える。			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	腹痛、下痢・便秘の原因・メカニズム・種類・症状を理解する。		テキスト① テキスト② テキスト③ ワークシート	①腹部消化管の構造と機能について 復習して臨む。
	授業内容	1. 腹部消化管の構造と機能について説明する。 2. 腹痛、下痢・便秘の分類・原因ならびにメカニズムと特徴について説明する。 3. 腹痛、下痢・便秘のある患者の訴えと生活に及ぼす影響について考える。			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	症候の病態関連性を整理し、説明できる。		P B L	
	授業予定	グループ毎に症候の原因、発症のメカニズムを整理し、全体共有する。			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	吐血・下血の原因・メカニズム・種類・症状を理解する。		テキスト① テキスト② テキスト③ ワークシート	①口・咽頭・食道 の構造と機能について復習して臨 む。
	授業予定	1. 吐血・下血の定義・性状・分類・原因ならびに発症のメカニズムと特徴、随伴症状について説明する。 2. 吐血・下血のある患者の訴えと生活に及ぼす影響について考える。			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	嚥下障害の原因・メカニズム・種類・症状を理解する。		テキスト① テキスト② テキスト③ ワークシート	
	授業予定	1. 咀嚼・嚥下の仕組みについて説明する。 2. 嚥下障害の定義、メカニズムと随伴症状について説明する。 3. 嚥下障害のある患者の訴えと生活に及ぼす影響について考える。			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	症候の病態関連性を整理し、説明できる。		PBL	
	授業予定	グループ毎に症候の原因、発症のメカニズムを整理し、全体共有する。			
第 7 回 〔講義〕	到達目標	悪心嘔吐の原因・メカニズム・種類・症状を理解する。		テキスト① テキスト② テキスト③ ワークシート	
	授業予定	1. 悪心嘔吐の分類・原因ならびにメカニズムと特徴、随伴症状について説明する。 2. 悪心嘔吐のある患者の訴えと生活に及ぼす影響について考える。			
第 8 回 〔講義〕	到達目標	頭痛の原因・メカニズム・種類・症状を理解する。		テキスト① テキスト② テキスト③ ワークシート	①脳の構造と機能 について復習して 臨む。
	授業予定	1. 脳・神経・筋肉の機能、脳循環や髄膜・髄液の働きについて説明する。 2. 頭痛の分類・原因ならびにメカニズムと特徴、随伴症			

		<p>状について説明する。</p> <p>3. 頭痛のある患者の訴えと生活に及ぼす影響について考える。</p>		
第 9 回 〔講義〕	到達目標	意識障害の原因・メカニズム・種類・症状を理解する。	テキスト①	①“意識障害”の病態の関連性を図に表してみる
	授業予定	<p>1. 意識障害の定義、分類、原因ならびにメカニズムと特徴、随伴症状について説明する。</p> <p>2. 意識障害のある患者の訴えと生活に及ぼす影響について考える。</p>	<p>テキスト②</p> <p>テキスト③</p> <p>ワークシート</p>	
第 10 回 〔講義〕	到達目標	症候の病態関連性を整理し、説明できる。	PBL	
	授業予定	グループ毎に症候の原因、発症のメカニズムを整理し、全体共有する。		
第 11 回 〔講義〕	到達目標	けいれん・てんかんの原因・メカニズム・種類・症状を理解する。	テキスト①	
	授業予定	<p>1. けいれん・てんかんの定義、分類、原因ならびにメカニズムと特徴、随伴症状について説明する</p> <p>2. けいれん・てんかんのある患者の訴えと生活に及ぼす影響について考える。</p>	<p>テキスト②</p> <p>テキスト③</p> <p>ワークシート</p>	
第 12 回 〔講義〕	到達目標	運動麻痺の原因・メカニズム・種類・症状を理解する。	テキスト①	①運動機能と下行伝導路について復習して臨む。
	授業予定	<p>1. 運動制御のしくみについて説明する。</p> <p>2. 運動麻痺の分類、原因ならびにメカニズムと特徴、随伴症状について説明する。</p> <p>3. 運動麻痺のある患者の訴えと生活に及ぼす影響について考える。</p>	<p>テキスト②</p> <p>テキスト③</p> <p>ワークシート</p>	
第 13 回 〔講義〕	到達目標	症候の病態関連性を整理し、説明できる。	PBL	
	授業予定	グループ毎に症候の原因、発症のメカニズムを整理し、全体共有する。		
第 14 回 〔講義〕	到達目標	感覚障害の原因・メカニズム・種類・症状を理解する。	テキスト①	①皮膚の構造と機能、感覚機能と上行伝導路について復習して臨む。
	授業予定	<p>1. 皮膚の構造と機能、感覚機能と上行伝導路について説明する。</p> <p>2. 皮膚感覚の異常の原因ならびにメカニズムと特徴、随伴症状について説明する。</p> <p>3. 感覚障害のある患者の訴えと生活に及ぼす影響について考える。</p>	<p>テキスト②</p> <p>テキスト③</p> <p>ワークシート</p>	
第 15 回		<p>まとめ</p> <p>終講試験(50分)</p>		
成績評価の基準と方法		<p>基準：履修規程第28条に規定する評価基準に準ずる。</p> <p>方法：終講筆記試験100%、60%未満は再試験とする。</p>		
使用教材	テキスト	<p>①系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進 [2] 病態生理学：医学書院 e テキスト</p> <p>②系統看護学講座 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学：医学書院 e テキスト</p> <p>③系統看護学講座 基礎看護学 [4] 臨床看護総論：医学書院 e テキスト</p> <p>④系統看護学講座 成人看護学 [1] 成人看護学総論：医学書院 e テキスト</p>		
	参考図書	<p>緊急度・重症度から見た症状別看護過程：医学書院 e ナーストレーナー</p> <p>看護過程に沿った対症看護：Gakken</p>		
	その他	配布資料		
授業以外の学習方法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。		
履修上の留意点		特に解剖生理学の知識が必要となります。良く復習して授業に臨むこと。		

科目区分	専門基礎分野	科目名	微生物学	単 位	1 単位
対象学年	1 学年	学 期	前期・後期	時 間	30 時間
担当教員	李 康生	実務経験 関連資格	医師 (元) 大分大学 微生物学 講師 平松学園 教員		
目 的	微生物とは何かを理解する。 感染とその防御について理解する。 主な病原微生物について理解する。				
目 標	1. 微生物の性質について、その種類と特徴を理解する。 2. 病原微生物の構造と機能、それらが人体に及ぼす影響を理解する。 3. 感染及び異物に対する、ヒトの生体反応について理解する。 4. 感染症の予防、治療について理解する。				DP への対応 DP3 DP3 DP3 DP3
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準備学習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	微生物学の概要について理解する。		微生物学	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 微生物の性質、微生物と人間、微生物学の対象と目的、微生物学の歩みについて説明する。			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	細菌の性質について理解する。		微生物学	
	授業内容	1. 細菌の形態と特徴、培養環境と栄養、細菌の遺伝、細菌の分類、常在細菌叢について説明する。			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	真菌の性質について理解する。		微生物学	
	授業予定	1. 真菌の形態と特徴、真菌の増殖、真菌の分類と命名法、栄養と培養について説明する。			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	原虫の性質について理解する。		微生物学	
	授業予定	1. 原虫の形態と特徴 病原原虫の種類			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	ウイルスの性質について理解する。		微生物学	
	授業予定	ウイルスの特徴 構造と各部分の機能 ウイルスの増殖 ウイルスの分類について説明する。			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	微生物感染の一般的機構と感染の成立・発症、さらにさまざまな病原因子や感染様式について理解する。		微生物学	
	授業予定	微生物感染の機構、感染の成立から発症・治癒まで、細菌感染の機構、真菌感染の機構、原虫感染の機構、ウイルス感染の機構について説明する。			
第 7 回 〔講義〕	到達目標	感染に対する生体防御機構と免疫異常について理解する。		微生物学	
	授業予定	自然免疫のしくみ 獲得免疫の仕組み 粘膜免疫の仕組み 感染の徴候と症状について説明する。			
第 8 回 〔講義〕	到達目標	環境微生物の分布と感染源、感染経路について理解する。		微生物学	
	授業予定	1. 感染源・感染経路からみた感染症（経口・経気道・接触経皮・母子）について説明する。 2. 滅菌と消毒（バイオハザードとバイオセーフティ、意義と定義、滅菌法、濾過除菌、消毒と消毒薬について説明する。			
第 9 回 〔講義〕	到達目標	感染症の検査と診断について理解する。		微生物学	
	授業予定	病原体を検出する方法 生体の反応から診断する方法を説明する。			
第 10 回 〔講義〕	到達目標	感染症の予防と治療について理解する。		微生物学	
	授業予定	化学療法的基础 各種の化学療法薬 その他の治療法を説明し、ワクチンについて説明する。			
第 11 回 〔講義〕	到達目標	感染症の現状と対策について理解する。		微生物学	
	授業予定	感染症の変遷 感染症の現状と問題点 感染症への対策を説			

		明する。		
第 12 回 〔講義〕	到達目標	病原細菌と細菌感染症について理解する。	微生物学	
	授業予定	グラム陽性球菌・陰性球菌 グラム陰性好気性杆菌・通性杆菌 カンピロバクター属・ヘリコバクター属 グラム陽性杆菌 抗酸菌と放線菌 嫌気性菌 スピロヘータ マイコプラズマ リケッチア目 クラミジア科について説明する。		
第 13 回 〔講義〕	到達目標	病原真菌と真菌感染症について理解する。	微生物学	
	授業予定	深在性真菌症をおこす真菌 深部皮膚真菌症をおこす真菌 表在性真菌症をおこす真菌について説明する。		
第 14 回 〔講義〕	到達目標	寄生虫および病原原虫と原虫感染症について理解する。 病原ウイルスとウイルス感染症について理解する。	微生物学	
	授業予定	1. 根足虫類、鞭毛虫類、胞子虫類、繊毛虫類を説明する。 2. DNAウイルス RNAウイルス ウイルスの臨床的分類について説明する。		
第 15 回		まとめ 終講試験(50分)		
成績評価の基準と方法		基準 : 履修規程第 28 条に規定する評価基準に準ずる。 方法 : 終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進〔4〕微生物学:医学書院 eテキスト		
	参考図書			
	その他	配布資料、パワーポイント		
授業以外の学習方法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。		
履修上の留意点				

科目区分	専門基礎分野	科目名	疾病論 I	単 位	1 単位
対象学年	1 学年	学 期	後期	時 間	30 時間
担当教員	①廣田 潤 ②篠崎 和宏 ③佐藤 文憲	実務経験 関連資格	①医師 ②医師 ③医師		
目 的	急速な少子高齢化の進展や、慢性疾患の増加など疾病構造の変化、医療技術の進歩、看護業務の複雑・多様化など看護を取り巻く環境は大きく変化した。その中で質の高い看護を提供するためには、正確な疾病の知識を習得することが重要である。器官系統別に疾患について学び、対象の病態の理解や看護につなげる。				
目 標	1. 各種疾患の病因と病変の特徴について理解する。 2. 各種疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。			DP への対応	
				DP 3	
授業回数 〔方法〕	内 容		使用教材	授業に関する 準 備 学 習	
第 1 回 〔講義〕 (廣田)	到達目標	1. 循環器の構造と機能について理解する。 2. 主な症状とその病態生理について理解する。	テキスト① 配布資料 パワーポイント	教科書の指定部分 を 事前読んでお くこと。講義内容 や練習問題 を復習 しておくこと。	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 循環器の構造と機能について説明する。 3. 症状とその病態生理について説明する。			
第 2 回 〔講義〕 (廣田)	到達目標	主な症状とその病態生理について理解する。	テキスト① 配布資料 パワーポイント		
	授業内容	1. 症状とその病態生理について説明する。 胸痛 動悸 呼吸困難 浮腫 チアノーゼ めまい・失神 四肢の疼痛 ショック			
第 3 回 〔講義〕 (廣田)	到達目標	主な検査について理解する。	テキスト① 配布資料 パワーポイント		
	授業予定	1. 主な検査について説明する。 ・診察と診断の流れ ・検査(心電図 胸部X線検査 心エコー 法 脈波検査 心臓カテーテル法 血行動態モニタリング)			
第 4 回 〔講義〕 (廣田)	到達目標	主な治療・処置について理解する。	テキスト① 配布資料 パワーポイント		
	授業予定	1. 主な治療・処置について説明する。 ・内科的治療(薬物療法 経皮的冠動脈インターベンシ ョンベースメカ治療) ・外科的治療(心臓手術の周術期管理 冠動脈バイパス術 など) 補助循環装置			
第 5 回 〔講義〕 (篠崎)	到達目標	主な循環器疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。	テキスト① 配布資料 パワーポイント		
	授業予定	1. 主な疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 虚血性心疾患			
第 6 回 〔講義〕 (篠崎)	到達目標	主な循環器疾患の病態、検査、治療、予防を理解する。	テキスト① 配布資料 パワーポイント		
	授業予定	1. 主な循環器疾患の病態、検査、治療、予防について説 明する。 心不全 血圧異常			
第 7 回 〔講義〕 (篠崎)	到達目標	主な循環器疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。	テキスト① 配布資料 パワーポイント		
	授業予定	1. 主な疾患の病態、検査、治療、予防について説明す る。 不整脈 弁膜症 心膜炎 心筋疾患			
第 8 回 〔講義〕 (篠崎)	到達目標	主な循環器疾患の病態、検査、治療、予防を理解する。	テキスト① 配布資料 パワーポイント		
	授業予定	1. 主な疾患の病態、検査、治療、予防について説明す る。 肺性心 先天性心疾患 動脈系疾患 静脈系疾患 リンパ系疾患			

第 9 回 〔講義〕 (佐藤)	到達目標	1. 腎泌尿器の構造と機能について理解する。 2. 主な症状とその病態生理について理解する。	テキスト② 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 腎泌尿器の構造と機能について説明する。 3. 主な症状とその病態生理について説明する。		
第 10 回 〔講義〕 (佐藤)	到達目標	主な症状とその病態生理について理解する。	テキスト 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 主な症状とその病態生理について説明する。 尿の異常 排尿に関連した症状 浮腫 脱水 循環器系の異常 血液の異常 尿毒症 疼痛 腫脹・腫瘤 その他の症状		
第 11 回 〔講義〕 (佐藤)	到達目標	主な検査について理解する。	テキスト② 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 主な検査について説明する。 ・診察と診断の流れ ・検査(尿検査 分泌物検査 腎機能検査 画像検査 経尿道的操作および内視鏡検査 尿流動態検査 生検性・生殖機能の検査)		
第 12 回 〔講義〕 (佐藤)	到達目標	主な治療・処置について理解する。	テキスト② 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 主な治療・処置について説明する。 腎疾患の内科的治療 尿路感染症の治療 手術療法 腎・泌尿器がんの治療 排尿管理 透析療法 腎移植		
第 13 回 〔講義〕 (佐藤)	到達目標	主な腎泌尿器疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。	テキスト② 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 主な疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 腎不全とAKI・CKD ネフローゼ症候群 糸球体腎炎		
第 14 回 〔講義〕 (佐藤)	到達目標	主な腎泌尿器疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。	テキスト② 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 主な疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 全身性疾患による腎障害 尿細管間質性腎炎 腎血管性病変 尿細管機能異常 妊娠高血圧症候群 尿路・性器の感染症 尿路の通過障害と機能障害 尿路損傷および異物 尿路結石症 尿路・性器の腫瘍 発生・発育の異常 男性不妊症、男性性機能障害		
第 15 回		まとめ 終講試験(50分)		
成績評価の基準と方法		<p>基準：履修規程第28条に規定する評価基準に準ずる。</p> <p>方法：</p> <p>終講試験は、循環器・腎泌尿器合わせて100%の試験とする。得点60%未満は再試験とする。</p> <p>終講試験(100点満点)内訳は以下のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回～第4回 循環器 (25点) ・第5回～第8回 循環器 (25点) ・第9回～第14回 腎泌尿器 (50点) 		
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔3〕循環器：医学書院 eテキスト ②系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔8〕腎泌尿器：医学書院 eテキスト		
	参考図書			
	その他	配布資料		
授業以外の学習方法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。		
履修上の留意点				

科目区分	専門基礎分野	科目名	疾病論Ⅱ	単 位	1 単位
対象学年	1 学年	学 期	前期・後期	時 間	30 時間
担当教員	①松川 秀 ②白石 憲男	実務経験 関連資格	①医師 ②医師		
目 的	急速な少子高齢化の進展や、慢性疾患の増加など疾病構造の変化、医療技術の進歩、看護業務の複雑・多様化など看護を取り巻く環境は大きく変化した。その中で質の高い看護を提供するためには、正確な疾病の知識を習得することが重要である。器官系統別に疾患について学び、対象の病態の理解や看護につなげる。				
目 標	1. 各種疾患の病因と病変の特徴について理解する。 2. 各種疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。				DP への対応 DP3
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準備学習
第 1 回 〔講義〕 (松川)	到達目標	1. 呼吸器の構造と機能について理解する。 2. 主な症状とその病態生理について理解する。		テキスト① 配布資料 パワーポイント	教科書の指定部分 を 事前読んでお くこと。 ・講義内容や練習 問題を復習してお くこと。
	授業予定	1. ガイダンス 2. 呼吸器の構造と機能について説明する。 3. 症状とその病態生理について説明する。			
第 2 回 〔講義〕 (松川)	到達目標	主な症状とその病態生理について理解する。		テキスト① 配布資料 パワーポイント	
	授業内容	1. 症状とその病態生理について説明する。 咳嗽 喀痰 血痰・咯血 胸痛 呼吸困難 チアノーゼ ばち指 発熱 呼吸の異常 声の異常 いびき 意識障 害			
第 3 回 〔講義〕 (松川)	到達目標	主な検査について理解する。		テキスト① 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 主な検査について説明する。 ・診察と診断の流れ ・検査 (血液検査 喀痰検査 咽頭・鼻腔ぬぐい液検査 胸水検査 画像診断 内視鏡検査 生検 呼吸機能検査)			
第 4 回 〔講義〕 (松川)	到達目標	主な治療・処置について理解する。		テキスト① 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 主な治療・処置について説明する。 吸入療法 酸素療法 人口呼吸療法 呼吸リハビリテーション 気道確保 胸腔ドレナージ 呼吸器外科の手術			
第 5 回 〔講義〕 (松川)	到達目標	主な呼吸器疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。		テキスト① 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 感染症 間質性肺疾患 気道疾患 肺循環疾患			
第 6 回 〔講義〕 (松川)	到達目標	主な呼吸器疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。		テキスト① 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 呼吸不全 呼吸調節に関する疾患 肺腫瘍 肺・肺血管系の形成異常			
第 7 回 〔講義〕 (松川)	到達目標	主な呼吸器疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。		テキスト① 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 胸膜・縦隔・横隔膜の疾患 肺移植 胸部外傷			
第 8 回 〔講義〕 (白石)	到達目標	1. 消化器の構造と機能を理解する。 2. 主な症状とその病態生理について理解する。		テキスト② 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. ガイダンス			

		2. 消化器の構造と機能について説明する。 3. 症状とその病態生理について説明する。		
第 9 回 〔講義〕 (白石)	到達目標	主な症状とその病態生理について理解する。	テキスト② 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 症状とその病態生理について説明する。 嚥下困難 おくび・胸やけ 吐き気・嘔吐 腹痛 吐血・ 下血 下痢 便秘 腹部膨満 食欲不振と体重減少 腹水 黄疸 意識障害 (肝性脳症)		
第 10 回 〔講義〕 (白石)	到達目標	主な検査について理解する。	テキスト② 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 主な検査について説明する。 ・診察と診断の流れ ・検査 (糞便検査 肝機能検査 膵外分泌検査 超音波検査 内視鏡検査 肝生検 放射線検査 X線CT MRI シンチグラフィ P E T)		
第 11 回 〔講義〕 (白石)	到達目標	主な治療・処置について理解する。	テキスト② 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 主な治療・処置について説明する。 薬物療法 栄養療法・食事療法 手術療法 放射線療法		
第 12 回 〔講義〕 (白石)	到達目標	主な消化器疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。	テキスト② 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 食道の疾患 胃・十二指腸の疾患		
第 13 回 〔講義〕 (白石)	到達目標	主な消化器疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。	テキスト② 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 腸および腹膜疾患 肝臓・胆嚢の疾患		
第 14 回 〔講義〕 (白石)	到達目標	主な消化器疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。	テキスト② 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 膵臓の疾患 急性腹症 腹部外傷		
第 15 回		まとめ 終講試験(50分)		
成績評価の基準と方法		<p>基準 : 履修規程第 28 条に規定する評価基準に準ずる。</p> <p>方法 :</p> <p>終講試験は、呼吸器・消化器合わせて 100% の試験とする。得点 60% 未満は再試験とする。</p> <p>終講試験 (100 点満点) 内訳は以下のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 1 回～第 7 回 呼吸器 (50 点) ・第 8 回～第 14 回 消化器 (50 点) 		
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔2〕呼吸器：医学書院 e テキスト ②系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔5〕消化器：医学書院 e テキスト		
	参考図書			
	その他	配布資料、パワーポイント		
授業以外の学習方法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。		
履修上の留意点				

科目区分	専門基礎分野	科目名	疾病論Ⅲ	単 位	1単位
対象学年	1学年	学 期	後期	時 間	30時間
担当教員	①加賀 明彦 ②野口 蒸治	実務経験 関連資格	①医師 ②医師		
目 的	急速な少子高齢化の進展や、慢性疾患の増加など疾病構造の変化、医療技術の進歩、看護業務の複雑・多様化など看護を取り巻く環境は大きく変化した。その中で質の高い看護を提供するためには、正確な疾病の知識を習得することが重要である。器官系統別に疾患について学び、対象の病態の理解や看護につなげる。				
目 標	1. 各種疾患の病因と病変の特徴について理解する。 2. 各種疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。			DP への対応 DP3	
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準備学習
第 1 回 〔講義〕 (加賀)	到達目標	1. 脳神経の構造と機能について理解する。 2. 主な症状とその病態生理について理解する。		テキスト① 配布資料 パワーポイント	教科書の指定部分 を 事前に読んでお くこと。・講義内容 や練習問題を復習 しておくこと。
	授業予定	1. ガイダンス 2. 脳神経の構造と機能について説明する。 3. 症状とその病態生理について説明する。			
第 2 回 〔講義〕 (加賀)	到達目標	主な症状とその病態生理について理解する。		テキスト① 配布資料 パワーポイント	
	授業内容	1. 主な症状とその病態生理について説明する。 脳神経障害とは 意識障害 高次脳機能障害 運動機能障害 感覚機能障害 自律性のある機能の障害 頭蓋内圧亢進と脳ヘルニア 髄膜刺激症状 頭痛 めまい			
第 3 回 〔講義〕 (加賀)	到達目標	主な検査について理解する。		テキスト① 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 主な検査について説明する。 ・診察と診断の流れ ・検査 (神経学的診察 画像診断 電気生理学的検査 脳脊髄液検査・生検)			
第 4 回 〔講義〕 (加賀)	到達目標	主な治療・処置について理解する。		テキスト① 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 主な治療・処置について説明する。 ・外科的治療法 ・内科的治療法			
第 5 回 〔講義〕 (加賀)	到達目標	主な疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。		テキスト① 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 脳疾患 脊髄疾患 末梢神経障害			
第 6 回 〔講義〕 (加賀)	到達目標	主な脳神経疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。		テキスト① 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 末梢神経障害 筋疾患・神経筋接合部疾患 脱髄・変性疾患			
第 7 回 〔講義〕 (加賀)	到達目標	主な脳神経疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。		テキスト① 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 脳・神経系の感染症 中毒 てんかん 認知症 内科疾患に伴う神経疾患			
第 8 回 〔講義〕 (野口)	到達目標	1. 運動器の構造と機能について理解する。 2. 主な症状とその病態生理について理解する。		テキスト② 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 運動器の構造と機能について説明する。 3. 主な症状とその病態生理について説明する。			

第 9 回 〔講義〕 (野口)	到達目標	主な症状とその病態生理について理解する。	テキスト②	
	授業予定	1. 主な症状とその病態生理について説明する。 疼痛 形態の異常 関節運動の異常 神経の障害 跛行 筋肉の異常 その他の障害	配布資料 パワーポイント	
第 10 回 〔講義〕 (野口)	到達目標	主な検査について理解する。	テキスト②	
	授業予定	1. 主な検査について説明する。 ・診察と診断の流れ ・検査 (画像検査 電気生理学的検査 関節鏡検査 その他の検査)	配布資料 パワーポイント	
第 11 回 〔講義〕 (野口)	到達目標	主な治療・処置について理解する。	テキスト②	
	授業予定	1. 主な治療・処置について説明する。 保存療法 理学療法と作業療法 手術療法 義肢と装具	配布資料 パワーポイント	
第 12 回 〔講義〕 (野口)	到達目標	主な運動器疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。	テキスト②	
	授業予定	1. 疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 外傷性の疾患 (骨折 脱臼 捻挫及び打撲 神経の損傷 筋・腱・靭帯などの損傷)	配布資料 パワーポイント	
第 13 回 〔講義〕 (野口)	到達目標	主な運動器疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。	テキスト②	
	授業予定	1. 疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 非外傷性の疾患 (先天性疾患 骨・関節の炎症性疾患 骨腫瘍および軟 部腫瘍 代謝性骨疾患 腱の疾患 神経・筋疾患)	配布資料 パワーポイント	
第 14 回 〔講義〕 (野口)	到達目標	主な運動器疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。	テキスト②	
	授業予定	1. 疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 上肢および上肢帯の疾患 脊椎の疾患 下肢及び下肢帯の疾患 ロコモティブシンドロームと運動器不安定症 フレイル サルコペニア 廃用症候群	配布資料 パワーポイント	
第 15 回		まとめ 終講試験(50分)		
成績評価の基準と方法		基準：履修規程第 28 条に規定する評価基準に準ずる。 方法： 終講試験は、脳神経・運動器合わせて 100% の試験とする。得点 60% 未満は再試験とする。 終講試験 (100 点満点) 内訳は以下のとおり ・第 1 回～第 7 回 脳神経 (50 点) ・第 8 回～第 14 回 運動器 (50 点)		
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔7〕脳・神経：医学書院 e テキスト ②系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔10〕運動器：医学書院 e テキスト		
	参考図書			
	その他	配布資料、パワーポイント		
授業以外の学習方法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。		
履修上の留意点				

科目区分	専門基礎分野	科目名	疾病論IV	単 位	1 単位
対象学年	1 学年	学 期	後期	時 間	30 時間
担当教員	①幸野 和洋 ②檜垣 直幸	実務経験 関連資格	①医師 ②医師		
目 的	急速な少子高齢化の進展や、慢性疾患の増加など疾病構造の変化、医療技術の進歩、看護業務の複雑・多様化など看護を取り巻く環境は大きく変化した。その中で質の高い看護を提供するためには、正確な疾病の知識を習得することが重要である。器官系統別に疾患について学び、対象の病態の理解や看護につなげる。				
目 標	1. 各種疾患の病因と病変の特徴について理解する。 2. 各種疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。				DP への対応 DP 3
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準備学習
第 1 回 〔講義〕 (幸野)	到達目標	1. 血液・造血器の構造と機能について理解する。 2. 主な症状とその病態生理について理解する。		テキスト① 配布資料 パワーポイント	教科書の指定部分 を 事前に読んでお くこと。・講義内 容や練習問題 を復 習しておくこと。
	授業予定	1. ガイダンス 2. 血液造血器の構造と機能について説明する。			
第 2 回 〔講義〕 (幸野)	到達目標	検査・診断と症候・病態生理について理解する。		テキスト① 配布資料 パワーポイント	
	授業内容	1. 病歴聴取と身体所見について説明する。 2. 検査（末梢血検査 骨髄穿刺・骨髄生検）について説明する。 3. 症候（貧血 白血球増加症 白血球減少症 脾腫 リンパ節腫脹 出血性素因）について説明する。			
第 3 回 〔講義〕 (幸野)	到達目標	主な血液・造血器疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。		テキスト① 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 赤血球系の異常 白血球系の異常			
第 4 回 〔講義〕 (幸野)	到達目標	主な血液・造血器疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。		テキスト① 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 造血器腫瘍 出血性疾患			
第 5 回 〔講義〕 (檜垣)	到達目標	1. 内分泌・代謝器官の構造と機能について理解する。 2. 主な症状とその病態生理について理解する。		テキスト② 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 内分泌・代謝器官の構造と機能について説明する。 3. 主な症状とその病態生理について説明する。			
第 6 回 〔講義〕 (檜垣)	到達目標	主な症状とその病態生理について理解する。		テキスト② 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 主な症状とその病態生理について説明する。 体重変化・身長異常 容貌の変化 神経・筋症状 循環器症状 消化器症状 皮膚の変化 無月経			
第 7 回 〔講義〕 (檜垣)	到達目標	主な検査について理解する。		テキスト② 配布資料 パワーポイン ト	
	授業予定	1. 主な検査について説明する。 ・内分泌疾患の検査（ホルモンの血中濃度・尿中ホルモン 及び代謝産物測定 免疫学的評価 ホルモン負荷試験 画像検査） ・代謝疾患の検査（糖尿病の診断・治療に用いる検査 脂 質異常症の診断・治療に用いる検査）			
第 8 回 〔講義〕 (檜垣)	到達目標	主な内分泌・代謝疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。		テキスト② 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 主な疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。			

		視床下部-下垂体前葉系疾患 視床下部-下垂体後葉系疾患 甲状腺疾患 副甲状腺疾患 副腎疾患 性腺疾患 膵・消化管神経内分泌腫瘍 多発性内分泌腫瘍症 内分泌疾患の救急治療		
第 9 回 〔講義〕 (檜垣)	到達目標	主な内分泌・代謝疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。	テキスト② 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 主な疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 糖尿病 脂質異常症 肥満症とメタボリックシンドローム 尿酸代謝異常		
第 10 回 〔講義〕 (檜垣)	到達目標	免疫のしくみとアレルギーについて理解する。	テキスト③ 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 免疫のしくみとアレルギーについて説明する。 免疫反応と病気 アレルギーに関与する免疫担当細胞と伝達物質 アレルギーのしくみ		
第 11 回 〔講義〕 (檜垣)	到達目標	主なアレルギー疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。	テキスト③ 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 主な疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 気管支喘息 アレルギー性鼻炎 アトピー性皮膚炎 薬物のアレルギー アナフィラキシーショック 蕁麻疹 接触性皮膚炎 食物アレルギー		
第 12 回 〔講義〕 (檜垣)	到達目標	膠原病の主な症状・検査と治療について理解する。	テキスト③ 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 主な膠原病の病態、検査、治療、予防について説明する。 ・症状（関節痛・関節炎 レイノー現象 皮膚・粘膜症状 発熱 たんぱく尿 筋力低下） ・検査と治療 ・膠原病の診断までの流れ ・検査（一般検査 血清・免疫学的検査 その他の検査） ・治療方法（一般療法 薬物療法）		
第 13 回 〔講義〕 (檜垣)	到達目標	主な膠原病の病態、検査、治療、予防について理解する。	テキスト③ 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 主な膠原病の病態、検査、治療、予防について説明する。 関節リウマチ 全身性エリテマトーデス 抗リン脂質抗体症候群 全身性強皮症 多発性筋炎・皮膚筋炎 混合性結合性組織病 シェーグレン症候群 ベーチェット病 血管炎症候群 リウマチ性多発筋痛症 成人発症ステイル病		
第 14 回 〔講義〕 (檜垣)	到達目標	主な感染症の病態、検査、治療、予防について理解する。	テキスト③ 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 主な感染症の病態、検査、治療、予防について説明する。 感染症の概要 検査・診断・治療 疾患の理解		
第 15 回		まとめ 終講試験(50分)		
成績評価の基準と方法		基準 : 履修規程第 28 条に規定する評価基準に準ずる。 方法 : 終講試験は、血液造血器・内分泌代謝・アレルギー・感染症合わせて 100% の試験とする。 得点 60% 未満は再試験とする。 終講試験 (100 点満点) 内訳は以下のとおり ・第 1 回～第 4 回 血液造血器 (30 点) ・第 5 回～第 14 回 内分泌代謝・アレルギー・感染症 (70 点)		
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔4〕血液・造血器：医学書院 e テキスト ②系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔6〕内分泌・代謝：医学書院 e テキスト		

		③系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔11〕アレルギー 膠原病 感染症：医学書院 eテキスト
	参 考 図 書	
	そ の 他	配布資料、パワーポイント
授 業 以 外 の 学 習 方 法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。
履 修 上 の 留 意 点		

科目区分	専門基礎分野	科目名	疾病論V	単 位	1単位
対象学年	1学年	学 期	前期・後期	時 間	30時間
担当教員	①本多和夫 ②岡田豊和 ③重見英男 ④甲斐宜貴 ⑤首藤謙一	実務経験 関連資格	①医師 ②医師 ③医師 ④医師 ⑤歯科医師		
目 的	急速な少子高齢化の進展や、慢性疾患の増加など疾病構造の変化、医療技術の進歩、看護業務の複雑・多様化など看護を取り巻く環境は大きく変化した。その中で質の高い看護を提供するためには、正確な疾病の知識を習得することが重要である。器官系統別に疾患について学び、対象の病態の理解や看護につなげる。				
目 標	1. 各種疾患の病因と病変の特徴について理解する。 2. 各種疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。				DP への対応
					DP3
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕 (本多)	到達目標	1. 女性生殖器の構造と機能について理解する。 2. 主な症状とその病態生理について理解する。		テキスト① 配布資料 パワーポイント	教科書の指定部分 を 事 前 に 読 ん で お く こと ・ 講 義 内 容 や 練 習 問 題 を 復 習 し て お く こと。
	授業予定	1. ガイダンス 2. 女性生殖器の構造と機能について説明する。 3. 主な症状とその病態生理について説明する。 ショック 出血 帯下 疼痛 発熱 下腹部膨満・腫瘤感 外陰部瘙癢感 排尿障害 自律神経症状・不定愁訴 リンパ浮腫			
第 2 回 〔講義〕 (本多)	到達目標	主な検査・治療や処置について理解する。		テキスト① 配布資料 パワーポイント	
	授業内容	1. 主な検査・治療や処置について説明する。 (診察・治療器具 理学的検査 病理検査 細菌・ウィルス・原虫検査 画像検査 腫瘍マーカー検査 妊娠検査 内視鏡検査 染色低検査・遺伝子検査) ・治療・処置(膣洗浄 膣タンポン 導尿 腹腔穿刺 ダグラス窩穿刺 レーザー治療 薬物療法 手術 避妊)			
第 3 回 〔講義〕 (本多)	到達目標	主な女性生殖器疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。		テキスト① 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 主な疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 性分化疾患 臓器別疾患(外陰・膣・子宮・卵管・卵巣・乳房の疾患 骨盤内炎症性疾患) 機能的疾患(月経異常・月経随伴症状 更年期障害 不妊症 不育症 感染症)			
第 4 回 〔講義〕 (岡田)	到達目標	1. 眼の構造と機能について理解する。 2. 主な症状とその病態生理について理解する。		テキスト② 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 眼の構造と機能について説明する。 3. 主な症状とその病態生理について説明する。 視力障害 視野異常 色覚異常 夜盲 充血 流涙 眼脂			
第 5 回 〔講義〕 (岡田)	到達目標	主な検査・治療や処置について理解する。		テキスト② 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 検査と治療・処置について説明する。 ・診察と診断の流れ ・検査(視力検査 屈折検査 開瞼法 開瞼反転法など) ・治療(点眼法 洗眼法 眼帯 手術など)			

第 6 回 〔講義〕 (岡田)	到達目標	主な眼疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。	テキスト②	
	授業予定	1. 主な疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 ・機能の異常 ・部位別の疾患(眼瞼 結膜 涙器 角膜 強膜 ぶどう膜網膜・硝子体 水晶体 緑内障など) ・外傷 全身疾患との関連	配布資料 パワーポイント	
第 7 回 〔講義〕 (重見)	到達目標	1. 耳鼻咽喉の構造と機能について理解する。 2. 主な症状とその病態生理について説明する。	テキスト③	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 耳鼻咽喉・頸部の構造と機能について説明する。 3. 耳にあらわれる症状 鼻にあらわれる症状 口腔・唾液腺・咽頭にあらわれる症状 喉頭にあらわれる症状	配布資料 パワーポイント	
第 8 回 〔講義〕 (重見)	到達目標	主な検査・治療や処置について理解する。	テキスト③	
	授業予定	1. 検査と治療・処置について説明する。 ・診察と診断の流れ ・検査(聴力検査 平衡機能検査など) ・治療(耳・鼻・口腔・咽喉頭・気管・食道疾患・頸部疾患の処置 手術療法)	配布資料 パワーポイント	
第 9 回 〔講義〕 (重見)	到達目標	主な耳鼻咽喉疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。	テキスト③	
	授業予定	1. 主な疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 耳疾患 鼻疾患 口腔・咽喉頭疾患 気道・食道・頸部疾患と音声・言語	配布資料 パワーポイント	
第 10 回 〔講義〕 (甲斐)	到達目標	1. 皮膚の構造と機能について理解する。 2. 主な症状とその病態生理について理解する。	テキスト④	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 皮膚の構造と機能について説明する。 3. 主な症状(発疹 掻痒 皮膚の変化)について説明する。	配布資料 パワーポイント	
第 11 回 〔講義〕 (甲斐)	到達目標	主な検査・治療や処置について理解する。	テキスト④	
	授業予定	1. 検査と治療・処置について説明する。 ・診察と診断の流れ ・検査(皮膚科的検査法 病原微生物の検査法 病理組織検査法 分子生物学的検査法) ・治療(全身療法 外用療法 手術療法 光線療法 レーザー療法 放射線療法 など)	配布資料 パワーポイント	
第 12 回 〔講義〕 (甲斐)	到達目標	主な皮膚疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。	テキスト④	
	授業予定	1. 主な疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 表在性皮膚疾患 真皮・皮下脂肪織および皮膚付属器の疾患 脈管系の異常による疾患 物理・化学的皮膚障害 腫瘍および色素異常症 感染症 全身性疾患に伴う皮膚病変	配布資料 パワーポイント	
第 13 回 〔講義〕	到達目標	1. 歯・口腔の構造と機能について理解する。 2. 主な症状とその病態生理について理解する。	テキスト⑤	
			配布資料	

(首藤)		3. 主な検査・治療や処置について理解する。	パワーポイント	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 歯・口腔の構造と機能について説明する。 3. 主な症状とその病態生理について説明する。 4. 主な検査と治療・処置について説明する。		
第14回 〔講義〕 (首藤)	到達目標	主な歯・口腔疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。	テキスト⑤ 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 主な疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 歯の異常と疾患 口腔領域の炎症 口腔粘膜の疾患 口腔領域の嚢胞 口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患 歯と顎骨の外傷		
第15回		まとめ 終講試験(50分)		
成績評価の基準と方法		<p>基準：履修規程第28条に規定する評価基準に準ずる。</p> <p>方法：</p> <p>終講試験は、女性生殖器・皮膚・耳鼻咽喉・眼・歯科口腔合わせて100%の試験とする。</p> <p>得点60%未満は再試験とする。</p> <p>終講試験(100点満点)内訳は以下のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回～第3回 女性生殖器 (20点) ・第3回～第5回 眼 (20点) ・第6回～第8回 耳鼻咽喉 (20点) ・第9回～第11回 皮膚 (20点) ・第12回～第14回 歯科口腔 (20点) 		
使用教材	テキスト	系統看護学講座 専門分野：医学書院 e テキスト ①系統看護学講座 成人看護学〔9〕女性生殖器 ②系統看護学講座 成人看護学〔13〕眼 ③系統看護学講座 成人看護学〔14〕耳鼻咽喉 ④系統看護学講座 成人看護学〔12〕皮膚 ⑤系統看護学講座 成人看護学〔15〕歯・口腔		
	参考図書			
	その他	配布資料、パワーポイント		
授業以外の学習方法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。		
履修上の留意点				

科目区分	専門基礎分野	科目名	保健医療論	単 位	1 単位
対象学年	1 学年	学 期	後期	時 間	15 時間
担当教員	矢田 公裕	実務経験 関連資格	医師 別府市医師会立別府青山看護学校学校長		
目 的	医療の現場は、生きることと死ぬこと、喜びと悲しみ、希望と絶望が行き交う人間味あふれる世界である。医療はときに、病に苦しむ患者を絶望の淵から救い出すことができる。しかし医療は限界があり、ときに無力でもある。患者が不治の病によって生きる道をふさがれ、手の施しようがないという厳しい現実と直面することもある。医療者の仕事は、決して生易しいものではない。どんな時にも医療者は、常に患者に寄り添い、共に病気に向き合っていかなければならない。その責任を果たすための、十分な知識と技術に裏打ちされた職業人としてのプロ意識について学ぶ。				
目 標	1. 生命を尊ぶ心、死を悼む心、健やかに生きること、おだやかに死ぬことについて理解する。 2. 医学の歴史、科学としての医学、エビデンスに基づく医療について理解する。 3. 社会保障制度、保健・医療・介護システムなどの幅広い分野について、基礎的な知識について理解する。 4. 医の倫理、医療安全、医薬品、最先端医療、医療情報といった現代医療にかかわる諸問題について理解する。 5. 医療現場の視点にとどまらず、社会全体の視点に立って、経済学や政策を通じて医療を良くするという考え方を理解する。				DP への対応
					DP 4
				DP 3	
				DP 5	
				DP 4	
				DP 3、2	
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準備学習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	死ぬことと生きることについて、医学だけでなく、哲学、社会学、宗教などさまざまな立場から理解する。		テキスト	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 患者との出会いと別れ。生と死、希望と絶望、歓喜と悲嘆が交錯する医療の現場についてイメージできるように説明する。			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	医学の歴史、科学としての医学、エビデンスに基づく医療について理解する。		テキスト	
	授業内容	1. 医療の不確実性について説明する。 2. エビデンスに基づく医療とは何かを説明する。			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	保健・医療・福祉を取り巻く社会環境について、時代と共に変化してきたことを理解する。		テキスト	
	授業予定	1. 少子高齢化、地域社会の変容、疾病構造の変化について説明する。 2. わが国の社会保障制度の4つの柱（①社会保険②公的扶助③社会福祉④公衆衛生・医療）の概要を説明する。			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	公衆衛生の概要を知り、現代医療に携わる多職種の役割とチーム医療の実際について理解する。		テキスト	
	授業予定	1. 公衆衛生の概要と、パブリックヘルスの対象を説明する。 2. 現代医療に携わる多職種の役割について説明する。 3. チーム医療の実際について説明する。			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	医療倫理、医療安全、医薬品、最先端医療、医療情報における諸問題を理解する。		テキスト	
	授業予定	1. 脳死・臓器移植における倫理について説明する。 2. 医療安全について説明する。 3. 医薬品、最先端医療、医療情報の概要を説明する。			

第 6 回 〔講義〕	到達目標	別府市医師会が担う医療政策について知ることができる。	テキスト 資料	
	授業予定	1. 別府市の医療の特徴、医療政策について説明する。 2. 別府市医師会の役割と機能やネットワーク、医療サービスについて説明する。		
第 7 回 〔講義〕	到達目標	意見交換が活発にできる	資料	
	授業予定	1. レポート内容を発表 2. 発学生の意見交換		
第 8 回		まとめ 終講試験(50分)		
成績評価の基準と方法		<p>基準：履修規程第 28 条に規定する評価基準に準ずる。</p> <p>方法： 終講筆記試験 80%、レポート 20%（日本臓器移植ネットワークがウェブサイトで開催している経験者の手記、および提供ご家族の手記を読み、その概要と感想、自分の考えを 400 字詰め原稿用紙 2 枚にまとめ、講義 7 回目に臨むこと。レポートは第 7 回講義終了時に提出すること）（60%未満は再試験とする）</p>		
使用教材	テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔1〕医療概論：医学書院 e テキスト		
	参考図書			
	その他			
授業以外の学習方法		第 6 講義までに別府市の医療についての情報収集をし、その現状をまとめて授業に臨む。		
履修上の留意点				

科目区分	専門基礎分野	科目名	治療論	単 位	1単位
対象学年	1学年	学 期	後期	時 間	30時間
担当教員	金馬 義平	実務経験 関連資格	医師		
目 的	医療は、個々の患者の病気や生活に関する情報を収集し、エビデンスのある診断・治療やケア方法を利用して、患者の病気を治したり生活の質（QOL）を向上させたりすることを目的とする。実際に患者に接し治療が行われている医療現場において、さまざまな患者の意思決定を支え、回復を促進するために、幅広く専門的な各種検査・治療を看護師は学び理解している必要がある。				
目 標	1. 外科医療について理解する。 2. 画像診断・放射線治療について理解する。 3. がん治療の実際について理解する。				DPへの対応 DP3 DP4 DP5
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準備学習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	外科医療の基礎について理解する		テキスト① 第1章	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 外科的治療の特徴と変遷、手術侵襲と生体の反応、炎症、感染症、創傷治癒について説明する			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	外科的治療を支える分野について理解する		テキスト① 第3章	
	授業内容	1. 麻酔法について説明する 2. 呼吸管理（酸素療法と機械的人工換気）について説明する			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	外科的治療を支える分野について理解する		テキスト① 第3章	
	授業予定	1. 体液管理、栄養管理、輸血療法、緩和医療について説明する			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	外科的治療の実際について理解する		テキスト① 第4章	
	授業予定	1. 外科の基本手技について説明する 切開 縫合 抜糸 止血 胃管の挿入 体腔穿刺			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	外科的治療の実際について理解する		テキスト① 第4章	
	授業予定	1. 低侵襲手術について説明する 内視鏡ガイド下の治療 画像ガイド下の治療			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	外科的基本手技の実際について理解する		テキスト① 第4章	
	授業予定	1. 臓器移植について説明する 基礎知識 移植の臨床			
第 7 回 〔講義〕	到達目標	救急看護の基礎について理解する		テキスト① 第5章	
	授業予定	1. 救急処置法の実際について説明する 救急処置の範囲と対象 救急処置法の原則と実際			
第 8 回 〔講義〕	到達目標	画像診断について理解する		テキスト② 第2章～第7章	
	授業予定	1. 医療における放射線医学の役割について説明する 2. X線診断、CT、MRI、超音波検査、核医学検査、VRI・血管造影について説明する			
第 9 回 〔講義〕	到達目標	放射線治療（総論）について理解する		テキスト② 第8章	
	授業予定	1. 放射線治療の原理について説明する 2. 放射線治療の基礎について説明する 3. 正常組織の有害反応について説明する 4. 治癒線量・耐容線量と治療可能比について説明する			
第 10 回 〔講義〕	到達目標	放射線治療（総論）について理解する		テキスト② 第8章	
	授業予定	1. 放射線治療の特徴と目的について説明する 2. 照射法の種類について説明する			
第 11 回	到達目標	放射線による障害と防護について理解する		テキスト②	

〔講義〕	授業予定	1. 放射線障害について説明する 2. 放射線防護について説明する	第11章	
第12回 〔講義〕	到達目標	がんの病態と診断について理解する	テキスト③ 第2章	
	授業予定	1. がんの生物学的特性について説明する 定義と種類 がんの発生、増殖と分化、浸潤と転移、特有の病態と症候、診断と病期分類		
第13回 〔講義〕	到達目標	がんの治療について理解する	テキスト③ 第3章	
	授業予定	1. がん治療の選択と実際について説明する 2. 緩和ケアについて説明する 3. がんゲノム医療について説明する 4. 手術療法について説明する		
第14回 〔講義〕	到達目標	がんの治療について理解する	テキスト③ 第3章	
	授業予定	1. 薬物療法について説明する 2. 放射線療法について説明する		
第15回		まとめ 終講試験(50分)		
成績評価の基準と方法		基準 : 履修規程第28条に規定する評価基準に準ずる。 方法 : 終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 : 医学書院 eテキスト ②系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 : 医学書院 eテキスト ③系統看護学講座 別巻 がん看護 : 医学書院 eテキスト		
	参考図書			
	その他			
授業以外の学習方法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。		
履修上の留意点				

科目区分	専門基礎分野	科目名	臨床栄養学	単 位	1 単位
対象学年	1 学年	学 期	前期・後期	時 間	30 時間
担当教員	中津留 郁子	実務経験 関連資格	(元) 別府大学短期大学部 講師		
目 的	臨床栄養学は、時代のニーズが変わっても人々の生活の質を高める為に欠く事の出来ない学問であり、栄養を通して疾病の予防や改善、生活の質の向上に寄与する学問でもある。看護者が臨床栄養学の知見を看護ケアに生かす為に、先ず基礎となる知識を学ぶ。				
目 標	1. 人間栄養学と看護の関係について理解する。 2. 栄養素の種類とはたらき、エネルギー代謝について理解する。 3. 栄養状態の評価方法について理解する。 4. ライフステージと栄養について理解する。 5. 健康障害に対する食事療法について理解する。				DP への対応 DP3 DP5 DP6
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	「人間栄養学」における看護の役割を理解する。		テキスト ワークシ ート	教科書の指定部分を 事前に読んでおくこ と。・講義内容や 練習問題を復習し ておくこと。
	授業予定	人間栄養学と看護について説明する。 栄養学を学ぶということ 保健・医療における栄養学 看護と栄養			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	各種栄養素の種類とはたらきを理解する。		テキスト ワークシ ート	
	授業内容	栄養素の種類とはたらきについて説明する。 糖質の種類と働き 脂質の種類とはたらき コレステロールのはたらき			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	各種栄養素の種類とはたらきを理解する。		テキスト ワークシ ート	
	授業予定	栄養素の種類とはたらきについて説明する。 タンパク質・アミノ酸の種類とはたらき・栄養価 ビタミンの種類とはたらき ミネラルの種類と働き			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	1. 栄養の消化・吸収・代謝について理解する。 2. エネルギー代謝について理解する。		テキスト ワークシ ート	
	授業予定	1. 食物の消化と栄養素の吸収・代謝について説明する 2. エネルギー代謝について説明する。 食品のエネルギー 体内のエネルギー エネルギー代謝の測定 エネルギー消費			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	18 の食品群の分類を中心に、食品ごとの特徴を理解する。		テキスト ワークシ ート	
	授業予定	食事と食品ごとの特徴について説明する。 食事摂取基準 食品群とその分類 食品に含まれる栄養素 食品の調理			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	栄養ケア・マネジメントの重要な基礎的事項を理解する。		テキスト ワークシ ート	
	授業予定	栄養ケア・マネジメントについて説明する。 チームアプローチと栄養ケア・マネジメント スクリ ーニングとアセスメント ケア計画と実施・モニタリング 評価			
第 7 回 〔講義〕	到達目標	栄養状態を評価・判定するための具体的な方法を理解する。		テキスト ワークシ ート	
	授業予定	栄養状態の評価・判定について説明する。 栄養アセスメントの意義・方法 臨床検査・診査 食事調査			
第 8 回 〔講義〕	到達目標	ライフステージごとの特徴と、そこにおける栄養ケア・マネ ジメントについて理解する。		テキスト ワークシ ート	
	授業予定	ライフステージごとの特徴と、そこにおける栄養ケア・マネ ジメントについて説明する。			

		乳児期・幼児期・学童期・思春期・青年期の栄養		
第 9 回 〔講義〕	到達目標	ライフステージごとの特徴と、そこにおける栄養ケア・マネジメントについて理解する。	テキスト ワークシート	
	授業予定	ライフステージごとの特徴と、そこにおける栄養ケア・マネジメントについて説明する。 成人期・妊娠期・更年期・高齢期の栄養		
第 10 回 〔講義〕	到達目標	病院における栄養管理の概要と各種疾患患者の食事療法の実際を理解する。	テキスト ワークシート	
	授業予定	病院における栄養管理の概要と各種疾患患者の食事療法の実際について説明する。 チームで取り組む栄養管理 病院食の意義や種類 栄養補給法		
第 11 回 〔講義〕	到達目標	各種疾患患者の食事療法の実際を理解する。	テキスト ワークシート	
	授業予定	各疾患・症状別食事療法について説明する。 やせ・低栄養 肥満・メタボリックシンドローム		
第 12 回 〔講義〕	到達目標	各種疾患患者の食事療法の実際を理解する。	テキスト ワークシート	
	授業予定	各疾患・症状別食事療法について説明する。 循環器・消化器・栄養代謝・腎臓疾患		
第 13 回 〔講義〕	到達目標	各種疾患患者の食事療法の実際を理解する。	テキスト ワークシート	
	授業予定	各疾患・症状別食事療法について説明する。 血液・食物アレルギー・骨粗鬆症・摂食・嚥下障害) 場面別の栄養管理（小児 周手術期 高齢者の在宅療 養がんの食事療法）		
第 14 回 〔講義〕	到達目標	栄養に関する各種問題を解決するための施策について理解する。	テキスト ワークシート	
	授業予定	栄養に関する各種問題を解決するための施策について説明する。 生活習慣病の予防 食生活の改善への施策 食の安全性の表示		
第 15 回		まとめ 終講試験(50分)		
成績評価の基準と方法		基準：履修規程第 28 条に規定する評価基準に準ずる。 方法：終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	系統看護学講座 人体の構造と機能〔3〕栄養学：医学書院 e テキスト		
	参考図書			
	その他	配布資料		
授業以外の学習方法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。		
履修上の留意点				

科目区分	専門基礎分野	科目名	臨床薬理学	単 位	1単位
対象学年	1学年	学 期	後期	時 間	30時間
担当教員	薬剤師	実務経験 関連資格	別府医療センター 薬剤師		
目 的	薬物は、直接的、間接的に摂取、適用することでヒトの生体機能に影響を及ぼす化学物質である。薬物の作用(薬効)、臨床応用(適性疾患)、正しい与薬法(薬物動態)、与薬後の注意(十分な観察とケア)、有害作用(副作用)とその対策(処置)、医薬品の取り扱い方についての理解が必要である。解剖生理学や生化学、基礎看護学での学びをふまえて、薬物作用の理論、各薬物の特徴(作用、副作用、体内動態)、作用機序、薬物の管理について理解する。また、薬物療法における看護師の役割や、チーム医療の一員としての重要性についても理解する。				
目 標	1. 基本的薬物の薬理作用とその適応・副作用を理解する。 2. 薬物の治療効果を高め、安全な与薬管理・服薬指導をするうえでの留意点を理解する。 3. 薬物治療に重要な看護師の役割を理解する。				DPへの対応
					DP3 DP3 DP3、4、5
授業回数 〔方法〕	内 容		使用教材	授業に関する 準 備 学 習	
第 1 回 〔講義〕	到達目標	1. ガイダンス 2. 薬物療法における看護師の役割について理解する	テキスト③ テキスト別巻		
	授業予定	薬物による病気の治療、薬理学とは何かについて説明する			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	薬物の作用と相互作用及び体内動態、薬物の保管・管理と法的規制について理解する	テキスト③ テキスト別巻		
	授業内容	薬理学の基礎知識、薬力学、薬物動態学、薬物相互作用、薬効の個人差に影響する因子、薬物作用の有益性と危険性、薬と法律について説明する			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	代表的な薬物の作用のしくみ、医療用途および主な副作用を理解する	テキスト③ テキスト別巻		
	授業予定	抗感染症薬(感染症治療に関する基礎事項、抗菌薬、抗真菌薬・抗ウイルス薬・好寄生虫薬、感染症治療に関する問題点)について説明する			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	代表的な薬物の作用のしくみ、医療用途および主な副作用を理解する	テキスト③ テキスト別巻		
	授業予定	抗がん薬(がん治療に関する基礎事項、抗がん薬各論、分子標的薬)について説明する			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	代表的な薬物の作用のしくみ、医療用途および主な副作用を理解する	テキスト③		
	授業予定	免疫治療薬(免疫系の基礎知識、免疫抑制薬、免疫増強薬・予防接種薬)について説明する			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	代表的な薬物の作用のしくみ、医療用途および主な副作用を理解する	テキスト③ テキスト別巻		
	授業予定	抗アレルギー薬・抗炎症薬(抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬、炎症と抗炎症薬、関節リウマチ治療薬、痛風・高尿酸血症治療薬)について説明する			
第 7 回 〔講義〕	到達目標	代表的な薬物の作用のしくみ、医療用途および主な副作用を理解する	テキスト③		
	授業予定	末梢での神経活動に作用する薬物(神経系による情報伝達、自律神経系作用薬、交感神経作用薬、副交感神経作用薬、筋弛緩薬・局所麻酔薬)について説明する			
第 8 回 〔講義〕	到達目標	代表的な薬物の作用のしくみ、医療用途および主な副作用を理解する	テキスト③		
	授業予定	中枢神経系に作用する薬物(中枢神経系のはたらきと薬物、全身麻酔薬、催眠薬・抗不安薬、抗精神病薬、抗うつ薬・気分安定薬、パーキンソン、症候群治療薬、抗てんか			

		ん薬、麻薬性鎮痛薬、片頭痛治療薬)について説明する		
第 9 回 〔講義〕	到達目標	代表的な薬物の作用のしくみ、医療用途および主な副作用を理解する	テキスト③	
	授業予定	循環器系に作用する薬物(降圧薬、狭心症治療薬、心不全治療薬、抗不整脈薬、利尿薬、脂質異常症治療薬、血液凝固系・線溶系に作用する薬物、血液に作用する薬物)について説明する		
第 10 回 〔講義〕	到達目標	代表的な薬物の作用のしくみ、医療用途および主な副作用を理解する	テキスト③	
	授業予定	呼吸器系に作用する薬物、消化器系に作用する薬物、生殖器・泌尿器系に作用する薬物について説明する		
第 11 回 〔講義〕	到達目標	代表的な薬物の作用のしくみ、医療用途および主な副作用を理解する	テキスト③	
	授業予定	物質代謝に作用する薬物(ホルモンとホルモン拮抗薬、治療薬としてのビタミン)について説明する		
第 12 回 〔講義〕	到達目標	代表的な薬物の作用のしくみ、医療用途および主な副作用を理解する	テキスト③	
	授業予定	皮膚に使用する薬物、眼科用薬について説明する		
第 13 回 〔講義〕	到達目標	代表的な薬物の作用のしくみ、医療用途および主な副作用を理解する	テキスト③	
	授業予定	救急に用いられる薬物、急性中毒に対する薬物について説明する		
第 14 回 〔講義〕	到達目標	代表的な薬物の作用のしくみ、医療用途および主な副作用を理解する	テキスト③	
	授業予定	漢方医学の基礎知識、漢方薬各論、消毒薬、輸液製剤・輸血剤、看護業務に必要な薬の知識について説明する		
第 15 回		まとめ 終講試験(50分)		
成績評価の基準と方法		基準 : 履修規程第 28 条に規定する評価基準に準ずる。 方法 : 終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 薬理学:医学書院 e テキスト		
	参考図書	系統看護学講座 別巻 臨床薬理学:医学書院 e テキスト		
	その他	配布資料、パワーポイント		
授業以外の学習方法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。		
履修上の留意点				

科目区分	専門基礎分野	科目名	公衆衛生学	単 位	1 単位
対象学年	2 学年	学 期	前期・後期	時 間	30 時間
担当教員	吉川 政治	実務経験 関連資格	環境計量士 ・(元) 大分県庁職員 大分大学医学部 環境・予防医学講座 講師 (医学博士)		
目 的	社会において果たすべき公衆衛生の役割・地域ですすめるべき健康づくりの方向や方法、人々の健康づくりの基盤づくりを理解していく中で、看護職が果たすべき役割を明確にする。				
目 標	1. 地域社会において人々が直面する健康上の課題について理解する。 2. 公衆衛生学の範囲と概要を理解する。				DP への対応 DP3・4・5 DP3・4・5
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	「公衆衛生」という言葉のもつ意味を、歴史的背景をふまえて理解する。		テキスト パワーポ イント	統計学や疫学の分野でも活躍した、近代看護教育の生みの親であるナイチンゲールの活躍について、学習しておきましょう。
	授業予定	1. ガイダンス 2. 公衆衛生とは何か説明する。 3. 世界の公衆衛生の歴史について説明する。 4. 日本における公衆衛生の始まりと今日までの展開について説明する。			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	看護職が公衆衛生を学ぶ意義を理解する。		テキスト パワーポ イント	自分の健康に影響を与えるものについて、具体的に考えておきましょう。
	授業内容	公衆衛生の活動対象を説明する。 ・自分の生活と健康に関する社会集団 ・看護職の公的責任と活動対象			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	国民の健康をまもるための、日本における主な政策や看護職の役割について理解する。		テキスト パワーポ イント	自分や家族の健康が、どのような人々によって支えられているかイメージしておきましょう。
	授業予定	公衆衛生のしくみについて説明する。 ・政策展開・国と地方自治体の役割 ・専門職のはたらき・多職種・住民との協働 健康増進・健康日本 21 について説明する。			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	人々の健康状態を知るために、様々な指標があることを理解する。		テキスト 参考図書 パワーポ イント	人口構成をはじめとした保健統計は、人々の健康状態と密接な関係があります。基礎・小児・母性・成人・老年・精神・在宅・統合分野の概論と関係を持たせながら学習しましょう。
	授業予定	集団の健康をとらえるための手法を説明する。 ・疫学と保健統計①			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	保健統計をもとに、日本人の健康状態と健康上の課題について理解する。		テキスト 参考図書 パワーポ イント	人口構成をはじめとした保健統計は、人々の健康状態と密接な関係があります。基礎・小児・母性・成人・老年・精神・在宅・統合分野の概論と関係を持たせながら学習しましょう。
	授業予定	集団の健康をとらえるための手法を説明する。 ・疫学と保健統計② 保健統計、分析疫学に関する演習を実施する。			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	環境と健康、生活とのつながりについて理解する。		テキスト 参考図書 パワーポ イント	既習の、人々の健康に大きく影響する環境について復習しておきましょう。
	授業予定	環境と健康について説明する。〔1〕			

第 7 回 〔講義〕	到達目標	人々の日常生活に直結する、身のまわりの環境問題とその対策、健康への影響について理解する。	テキスト 参考図書 パワーポイント	既習の、人々の健康に大きく影響する環境について復習しておきましょう。
	授業予定	環境と健康について説明する。〔2〕 食育・食品保健について説明する。		
第 8 回 〔講義〕	到達目標	日本の公衆衛生上の、重要な感染症とその対策について理解する。	テキスト 参考図書 パワーポイント	基礎看護学で学習した、医療者の感染予防対策と関連させながら学習を深めましょう。
	授業予定	感染症とその予防策について説明する。		
第 9 回 〔講義〕	到達目標	国際保健活動について理解する。	テキスト 参考図書 パワーポイント	自分が知っている、国際的な医療活動についてイメージしておきましょう。また、COPなどの国際的取り決めをとおして、地球環境問題について理解を深めましょう。
	授業予定	国際保健活動の概要を説明する。 グローバルな環境問題・地球環境問題について説明する。		
第 10 回 〔講義〕	到達目標	母子保健の対象となる人々や、しくみ（法制度・システム）、具体的な保健活動について理解する。	テキスト 参考図書 パワーポイント	母性看護の対象や看護活動について学習しておきましょう。また、関係法規と関連させながら学習していきましょう。
	授業予定	1. 公衆衛生看護とは何か説明する。 2. 母子保健について説明する。		
第 11 回 〔講義〕	到達目標	成人保健・高齢者保健の対象となる人々や、しくみ（法制度・システム）、具体的な保健活動について理解する。	テキスト 参考図書 パワーポイント	自分が住んでいる地域で行われている保健活動について、知っていることを明確にしておきましょう。また、関係法規と関連させながら学習していきましょう。
	授業予定	1. 成人保健の概要を説明する。 2. 高齢者保健の概要を説明する。		
第 12 回 〔講義〕	到達目標	精神保健・歯科保健・障害者保健・難病保健の対象となる人々や、しくみ（法制度・システム）、具体的な保健活動について理解する。	テキスト 参考図書 パワーポイント	自分の身のまわりで、知っている保健活動について具体的にしておきましょう。また、関係法規と関連させながら学習していきましょう。
	授業予定	1. 精神保健の概要を説明する。 2. 歯科保健の概要を説明する。 3. 障害者保健・難病保健の概要を説明する。		
第 13 回 〔講義〕	到達目標	現代の子どもの健康課題や、具体的な活動について理解する。	テキスト 参考図書 パワーポイント	自らが経験してきた小・中・高等学校生活において、健康を守るために行われていた保健活動について、想起しておきましょう。
	授業予定	1. 学校における健康のとらえを説明する。 2. 学校保健の展開について説明する。 3. 特別な支援を必要とする子どもたちについて説明する。		
第 14 回 〔講義〕	到達目標	1. 働く人々に生じる健康問題と、健康管理のしくみについて理解する。 2. 過去の健康危機や日本における健康危機管理体制を知り、日ごろから私たちができることについて想像する。	テキスト 参考図書 パワーポイント	働く人々における、健康上の問題について新聞等を用いて調べておきましょう。

	授業予定	1. 職場における健康と産業保健活動について説明する。 2. 健康危機管理・災害保健の概要を説明する。		う。近年の日本における代表的な災害において、保健活動に携わった人々の職種や活動について調べておきましょう。
第 15 回		まとめ 終講試験(50分)		
成績評価の基準と方法		基準 : 履修規程第 28 条に規定する評価基準に準ずる。 方法 : 終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔2〕公衆衛生：医学書院 e テキスト		
	参考図書	国民衛生の動向		
	その他	配布資料 パワーポイント		
授業以外の学習方法		指定のテキストを読み、人々の健康状態についてイメージしておきましょう。また、日ごろから、世界や日本の人々の健康状態に関心をもち、新聞やテレビニュースは敏感に確認しておきましょう。		
履修上の留意点		公衆衛生は、人々の健康を目的とする看護と密接な関係があります。特に、人口構成を中心とした保健統計や、国の政策は看護師国家試験においても必ず出題されるものです。それぞれの看護学領域においても基本的知識となります。また、保健統計は年度ごとに変化していくものです。留意しましょう。		

科目区分	専門基礎分野	科目名	社会福祉	単 位	2単位
対象学年	2学年	学 期	前期・後期	時 間	45時間
担当教員	四ツ谷 年晴	実務経験 関連資格	大分県社会福祉介護研修センター 専門員 (元)大分県庁職員(障害福祉・高齢者福祉にかかわる)		
目 的	国民の最低限度の生活を保障するための社会保障制度、障害者や要介護者が自立した生活を送るための社会福祉の概要と制度について理解する。				
目 標	1. 社会保障制度の概要を理解する。 2. 社会福祉の意義を理解する。 3. 医療・看護・福祉の連携の必要性を理解する。			DPへの対応 DP2・3 DP3・4 DP3・4・5	
授業回数 〔方法〕	内 容		使用教材	授業に関する 準 備 学 習	
第 1 回 〔講義〕	到達目標	わが国の人々が、誕生してから最期の時を迎えるまで、どのような制度によって支えられているのか理解する。	テキスト 参考図書	社会保障や社会福祉についてイメージしておきましょう。家族や自分がどのような制度の中で生活してきたのか、イメージしておきましょう。	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 社会保障制度について説明する。 3. 社会福祉の法制度について説明する。			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	1. ガイダンス 2. 社会保障制度について説明する。 3. 社会福祉の法制度について説明する。	テキスト 参考図書	自分の身のまわりや、社会の中で起きている諸問題を考えておきましょう。公衆衛生における保健統計を想起し、現代社会における諸問題についてイメージしておきましょう。	
	授業内容	1. 現代社会の変化について説明する。			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	現代の社会保障・社会福祉の動向について理解する。	テキスト 参考図書	現代社会の変化についてまとめておきましょう。	
	授業予定	1. 社会保障・社会福祉の動向について説明する。			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	わが国の医療保障制度の特徴を理解する。	テキスト 参考図書	日本の医療保障制度について、知っていることをまとめておきましょう。	
	授業予定	1. 医療保障制度の沿革について説明する。 2. 医療保障制度の構造と体系について説明する。			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	医療保険制度について理解する。	テキスト 参考図書	病院を受診した際の、自分や家族の負担金額を調べておきましょう。	
	授業予定	1. 健康保険と国民健康保険の概要を説明する。 2. 高齢者医療保障制度の概要を説明する。			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	保険診療のしくみを理解する。	テキスト 参考図書	病院を受診した際の、診療費支払明細書が手元にある場合は記載されている内容を確認しておきましょう。	
	授業予定	1. 保険診療のしくみについて説明する。 2. 公費負担医療の概要を説明する。 3. 国民医療費の概要を説明する。			
第 7 回 〔講義〕	到達目標	介護保険制度が創設された背景について理解する。	テキスト 参考図書	住んでいる地域の介護保険料や、身近な人(家族など)の介護保険料について調べておきましょう。 医療保険制度と介	
	授業予定	1. 介護保険制度創設の背景と介護保障の歴史について説明する。 2. 介護保険制度の概要を説明する。			

				<p>介護保険制度の違いについて調べておきましょう。</p> <p>地域・在宅看護論と関連があります。</p>
第 8 回 〔講義〕	到達目標	介護保険制度の概要と課題を理解する。	テキスト 参考図書	<p>介護保険の公費（国、都道府県、市町村）負担割合について調べておきましょう。</p> <p>地域・在宅看護論と関連があります。</p>
	授業予定	<p>1. 介護保険制度の概要を説明する。</p> <p>2. 介護保険制度の課題と展望について説明する。</p>		
第 9 回 〔講義〕	到達目標	<p>1. 所得保障の種類と受給対象者を理解する。</p> <p>2. 年金保険制度の仕組みを理解する。</p>	テキスト 参考図書	<p>国民年金・基礎年金の受給開始年齢について調べておきましょう。</p>
	授業予定	<p>1. 所得補償制度のしくみについて説明する。</p> <p>2. 年金保険制度の概要を説明する。</p>		
第 10 回 〔講義〕	到達目標	<p>1. 社会手当（児童手当、児童扶養手当、特別児童扶養手当、障害者手当）の受給対象者を理解する。</p> <p>2. 労働保険制度の対象者を理解する。</p>	テキスト 参考図書	<p>住んでいる地域の、児童手当の対象年齢や支給額について調べておきましょう。</p>
	授業予定	<p>1. 社会手当について説明する。</p> <p>2. 労働保険制度の概要を説明する。</p>		
第 11 回 〔講義〕	到達目標	<p>1. 生活保護の対象者と、種類・方法について理解する。</p> <p>2. 事例をとおして、生活保護が実施されるまでの過程を理解する。</p>	テキスト 参考図書	<p>生活保護について調べておきましょう。</p>
	授業予定	<p>1. 貧困・低所得問題と公的扶助制度の概要を説明する。</p> <p>2. 生活保護制度のしくみを説明する。</p> <p>*生活保護の実施（事例）</p>		
第 12 回 〔講義〕	到達目標	生活保護を取り巻く近年の動向について理解する。	テキスト 参考図書	<p>現代の生活保護をめぐる問題について、調べておきましょう。</p>
	授業予定	<p>1. 低所得者対策について説明する。</p> <p>2. 生活保護を取り巻く近年の動向について説明する。</p>		
第 13 回 〔講義〕	到達目標	現代における高齢者福祉の現状と具体的な高齢者福祉の施策について理解する。	テキスト 参考図書	<p>公衆衛生や基礎看護学概論の学習を想起し、世帯構造別にみた世帯数や、高齢者の健康状態について保健統計などをとおして調べておきましょう。</p>
	授業予定	<p>1. 高齢者福祉の概要を説明する。</p>		
第 14 回 〔講義〕	到達目標	障害者福祉の理念と、わが国の障害者福祉制度の変遷について理解する。	テキスト 参考図書	<p>どのような人々を障害者として位置づけているのでしょうか、自分が考えたことをまとめておきましょう。</p>
	授業予定	<p>1. 障害者福祉の概要を説明する。</p>		
第 15 回 〔見学〕	到達目標	<p>1. 高齢者や障害者が自立した生活を送るための、生活面でのさまざまな支援の実際を理解する。</p> <p>2. 高齢者福祉・障害者福祉の意義について理解する。</p>	配布資料	<p>社会福祉施設の見学を予定しています。日程は、後日お知らせします。</p>
	授業予定	<p>社会福祉施設を見学する。</p> <p>見学施設</p> <p>①大分県社会福祉 介護研修センター</p>		
第 16 回	到達目標	同上	配布資料	同上

〔見学〕	授業予定	同上		
第 17 回 〔見学〕	到達目標	1. 高齢者や障害者が自立した生活を送るための、生活面でのさまざまな支援の実態を理解する。 2. 高齢者福祉・障害者福祉の意義について理解する。	配布資料	社会福祉施設の見学を予定しています。現地集合となります。現地までのルートや方法を調べておきましょう。日程は、後日お知らせします。
	授業予定	社会福祉施設を見学する。 ②社会福祉法人 太陽の家		
第 18 回 〔見学〕	到達目標	同上	配布資料	同上
	授業予定	同上		
第 19 回 〔講義〕	到達目標	1. 児童に関わる法律と施策を理解する。 2. 現代社会がもたらす、児童の健やかな成長・発達への影響と課題について理解する。	テキスト 参考図書	日本、またはあなたの暮らす地域は、子どもたちが健やかに育つ環境にありますか？理由とともにあなたの考えをまとめておきましょう。
	授業予定	1. 児童家庭福祉の概要を理解する。		
第 20 回 〔講義〕	到達目標	社会福祉における個人・集団への具体的な援助技術について理解する。	テキスト 参考図書	個別・集団への援助技術について、テキストを読んでおきましょう。
	授業予定	1. 社会福祉援助について説明する。 2. 個別援助（ケースワーク）の方法について説明する 3. 集団援助（グループワーク）の方法について説明する。		
第 21 回 〔講義〕	到達目標	1. 様々な職種間における連携について理解する。 2. 医療・看護・福祉の連携における看護師の役割について理解する。	テキスト 参考図書	テキストの事例を読んでおきましょう。 医療・看護・福祉の連携の具体的な方法について、再度イメージしておきましょう。 専門職連携と関連があります。
	授業予定	1. 連携の必要性について説明する。 2. 社会福祉実践と医療・看護との連携について説明する。 *事例：連携の場面とその方法		
第 22 回 〔講義〕	到達目標	歴史的背景をもとに生まれた、現代における社会福祉の考え方について理解する。	テキスト 参考図書	これまでに学んだことを振り返り、社会保障・社会福祉の考え方についてまとめておきましょう。
	授業予定	社会福祉の歴史について説明する。		
第 23 回		まとめ 終講試験(50分)		
成績評価の基準と方法		基準：履修規程第 28 条に規定する評価基準に準ずる。 方法：終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔3〕 社会保障・社会福祉：医学書院 e テキスト		
	参考図書	国民衛生の動向		
	その他	配布資料 パワーポイント		
授業以外の学習方法		社会保障制度や社会福祉は、各看護学領域との密接な関係がある科目です。各科目と、関連づけ双方において予習・復習しながら学習をすすめましょう。		
履修上の留意点		身近な事例と照らし合わせながら講義に参加しましょう。また、テキストを読んで講義に参加しましょう。		

科目区分	専門基礎分野	科目名	臨床心理 I	単 位	1 単位
対象学年	2 学年	学 期	後期	時 間	15 時間
担当教員	榊原 有紀	実務経験 関連資格	別府大学 人間関係学科 講師 臨床心理士 公認心理士		
目 的	既習の人間関係論や基本看護技術におけるコミュニケーションの基礎知識をもとに、カウンセリング、コーチング、アサーティブコミュニケーションといった人間関係を構築するための理論と技法を理解する。				
目 標	1. カウンセリング・心理療法の看護への応用について理解する。 2. コーチングの理論を理解する。 3. アサーションの理論を理解し、アサーティブな対応について理解する。				DP への対応 DP1・2・3・4・ 5・6
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	人間関係を形成するための基本的な手段であるコミュニケーションのしくみについて理解する。		テキスト 配布資料	人間関係論や基礎看護学で学んだ知識を想起しておくこと。
	授業予定	1. ガイダンス 2. コミュニケーションが与える様々な影響について説明する。			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	カウンセリング・心理療法の種類とその概要について理解する。		テキスト 配布資料	テキストを読んでおくこと。
	授業内容	カウンセリング・心理療法の理論の概略を説明する。 ・支持的精神療法・クライエント中心療法 ・精神力動的な精神療法・行動療法 ・認知療法・認知行動療法			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	カウンセリング・心理療法の具体的な実践方法について理解する。		テキスト 配布資料	カウンセリング・心理療法の理論について復習しておくこと。
	授業予定	カウンセリング・心理療法の方法を説明する。 *事例演習			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	カウンセリング・心理療法の具体的な実践方法について理解する。		テキスト 配布資料	カウンセリング・心理療法の理論について復習しておくこと。
	授業予定	事例をとおして、カウンセリング・心理療法のスキルにおける自己の課題を明確にする。 *事例演習			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	カウンセリング・心理療法の具体的な実践方法について理解する。		テキスト 配布資料	カウンセリング・心理療法の理論について復習しておくこと。
	授業予定	事例をとおして、カウンセリング・心理療法のスキルにおける自己の課題を明確にする。 *事例演習			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	コーチングの基本的スキルの具体的な方法を理解する。		テキスト 配布資料	テキストを読んでおくこと。
	授業予定	1. コーチングの理論と方法を説明する。 (演習) 「認める」「聴く」「質問する」 「フィードバックする」「励ます」			
第 7 回 〔講義〕	到達目標	アサーションの理論を理解する。		テキスト 配布資料	他者との関係で自分が困難に感じたことをイメージしておくこと。
	授業予定	1. アサーションの理論と方法を説明する。 *事例演習			
第 8 回		まとめ 終講試験(50分)			
成績評価の基準と方法	基準 : 履修規程第 28 条に規定する評価基準に準ずる。 方法 : 終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。				
使用教材	テキスト	系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 第 2 部: : 医学書院 e テキスト			

	参考図書	
	その他	配布資料 パワーポイント
授業以外の学習方法		講義当日予定の学習内容については、事前にテキストを読んでおくこと。また、他者との関係で自分が困難に感じた場面を想起しておくこと。
履修上の留意点		看護職にとって、人間関係を築くことは職務の前提であり、看護活動においてはその中心となるものです。コミュニケーションやカウンセリングのスキルは講義をとおして身につけるものではなく、実践をとおして身につけていくものです。本科目で学んだ理論とスキルを、日ごろの人間関係の中でも実践しながらスキルを身につけていきましょう。

科目区分	専門基礎分野	科目名	臨床心理Ⅱ	単位	1単位
対象学年	2学年	学期	前期	時間	30時間
担当教員	木畑 孝子	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目的	1. 患者とその家族が置かれる様々な状況における看護師の役割について理解する。 2. 患者との相互作用を評価する方法「リフレクション」について学習する。				
目標	1. 患者その家族が置かれる様々な状況と看護師のかかわり方を理解する。 2. 患者との相互作用を評価する方法を理解する。 3. 保健医療チームにおける人間関係を理解する。			DPへの対応 DP1・2・3・4・ 5・6	
授業回数 〔方法〕	内容			使用教材	授業に関する 準備学習
第1回 〔講義〕	到達目標	患者とはどのような存在か理解する。		テキスト	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 患者になるということについて、身体的側面・心理的側面・社会的側面から説明する。		PWP	
第2回 〔講義〕	到達目標	患者と医療者の関係のあり方について理解する。		テキスト	
	授業内容	1. 患者－看護師の関係と、関係から生まれる相互作用について説明する。 2. 看護理論からみた患者－看護師関係について説明する。 ・ペプロウ・トラベルビー		PWP	
第3回 〔講義〕	到達目標	患者と医療者の関係のあり方について理解する。		テキスト	
	授業予定	1. 患者－看護師の関係と、関係から生まれる相互作用について説明する。 2. 看護理論をとおして患者－看護師関係について考える。 ・ペプロウ・トラベルビー		PWP	
第4回 〔講義〕	到達目標	患者－看護師の相互作用を評価するための方法を理解する。		テキスト	次回講義までに、身近にあった印象に残っている場面をノートに書き留めてくること。3つ以上の場面を挙げておくこと。場面は、よい場面、わるい場面、どちらでもない場面、何でもよい
	授業予定	1. リフレクションの目的と方法を説明する。 2. プロセスレコードの目的と方法を説明する。		PWP	
第5回 〔講義〕	到達目標	患者－看護師の相互作用を評価するための方法を理解する。		テキスト	
	授業予定	1. リフレクションをとおして相手と自分の相互作用を分析する。 *演習		PWP	
第6回 〔講義〕	到達目標	患者－看護師の相互作用を評価するための方法を理解する。		テキスト	
	授業予定	1. リフレクションをとおして相手と自分の相互作用を分析する。 *演習		PWP	
第7回 〔講義〕	到達目標	患者－看護師の相互作用を評価するための方法を理解する。		テキスト	
	授業予定	1. プロセスレコードをとおして自己の課題に気づく。		PWP	
第8回 〔講義〕	到達目標	患者－看護師の相互作用を評価するための方法を理解する。		テキスト	
	授業予定	1. プロセスレコードをとおして自己の課題に気づく。		PWP	

第 9 回 〔講義〕	到達目標	さまざまな状況にある患者と患者を支える看護師のかかわり方について理解する。	テキスト	
	授業予定	1. クリティカルな状況にある患者を支える人間関係について説明する。		
第 10 回 〔講義〕	到達目標	さまざまな状況にある患者を支える看護師のかかわり方について理解する。	テキスト	
	授業予定	1. 慢性疾患を抱えて生きる患者を支える人間関係について説明する。		
第 11 回 〔講義〕	到達目標	さまざまな状況にある患者を支える看護師のかかわり方について理解する。	テキスト	
	授業予定	1. 死に向かう患者を支える人間関係について説明する。		
第 12 回 〔講義〕	到達目標	さまざまな状況にある患者を支える看護師のかかわり方について理解する。	テキスト	
	授業予定	1. 人間関係構築が難しい患者との関係構築について説明する。 *疾患をかかえる子供との人間関係 *精神疾患を抱える患者との人間関係		
第 13 回 〔講義〕	到達目標	さまざまな場面における家族への看護について理解する。	テキスト	2 年次前期履修「家族看護」における理論を、復習しておきましょう。
	授業予定	1. さまざまな事例をとおして、家族と看護師のかかわりについて説明する。		
第 14 回 〔講義〕	到達目標	医療チームと人間関係について理解する。	テキスト	
	授業予定	1. チームにおける看護師の役割を説明する。 2. チームワークを阻害する要因と防止する方法について説明する。 3. チームにおけるコミュニケーションエラーとその予防方法を説明する。		
第 15 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準 : 履修規程第 28 条に規定する評価基準に準ずる。 方法 : 終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	系統看護学講座 基礎分野人間関係論 第 2 部: 医学書院 e テキスト		
	参考図書			
	その他	配布資料 パワーポイント		
授業以外の学習方法		講義当日予定の学習内容については、事前にテキストを読んでおくこと。また、他者との関係で自分が困難に感じた場面を想起しておくこと。		
履修上の留意点		看護職にとって、人間関係を築くことは職務の前提であり、看護活動においてはその中心となるものです。コミュニケーションやカウンセリングのスキルは講義をとおして身につけるものではなく、実践をとおして身につけていくものです。本科目で学んだ理論とスキルを、日ごろの人間関係の中でも実践しながらスキルとして身につけていきましょう。 本科目における「リフレクション」には、日ごろから意識的にも無意識的にも感じている些細な違和感がとても大切になります。そして、リフレクションは、看護師として成長するために生涯にわたって必要な振り返りのプロセスです。		

科目区分	専門基礎分野	科目名	関係法規	単 位	1単位
対象学年	2学年	学 期	前期	時 間	30時間
担当教員	①甲斐 慶子 ②清岡 佳子	実務経験 関連資格	①保健師 (元)別府市健康推進課 保健師 ②助産師 *医療事故管理者養成研修2を受講(日本看護協会) *医療事故対応及び支援(産婦の医療事故、療養上の世話の医療事故)		
目 的	我が国の保健医療に関する諸制度の概要を理解し、人々の健康を守るためのサービス提供機関と従事者の役割と機能に関する基本的な法律について学ぶ。				
目 標	1. 社会・生活基盤と健康に関する法規を理解する。 2. 人々の健康を守る医療従事者や機関に関する法規について理解する。 3. 看護職の職業人としての任務に関する法規を理解する。				DPへの対応
					DP3,4
授業回数 〔方法〕	内 容		使用教材	授業に関する 準 備 学 習	
第 1 回 〔講義〕 (甲斐)	到達目標	1. 社会・生活基盤と健康に関する法規を理解する。	テキスト①	① 医療を利用する者の視点で社会保障の施策について保障制度の活用が理解できるように学ぶ。 ②看護職については、看護制度の発展のために保助看法の改正が行われているので、諸改正に注意し、業務を理解できるように学ぶ 看護職の業務について法的根拠に基づいた実践と説明ができるように学習してください。欠格事由と障害をもつ看護職について考えてみる。	
	授業予定	法の概念について説明する。 1. 法の概念 2. 衛生法 3. 厚生労働行政のしくみ			
第 2 回 〔講義〕 (甲斐)	到達目標	1. 社会・生活基盤と健康に関する法規を理解する。	テキスト①		
	授業内容	医事法について説明する。 1. 医療法 2. 医療の資格			
第 3 回 〔講義〕 (甲斐)	到達目標	1. 社会・生活基盤と健康に関する法規を理解する。	テキスト①		
	授業予定	医事法について説明する。 1. 医療を支える法			
第 4 回 〔講義〕 (甲斐)	到達目標	1. 社会・生活基盤と健康に関する法規を理解する。	テキスト①		
	授業予定	保健衛生法について説明する。 1. 共通保健法令 2. 分野別保健法令 精神保健、母子保健と学校保健、母体の保護、 個別の疾病対策			
第 5 回 〔講義〕 (甲斐)	到達目標	1. 社会・生活基盤と健康に関する法規を理解する。	テキスト①		
	授業予定	保健衛生法について説明する。 1. 感染症に関する法令 2. 食品に関する法令 3. 環境衛生の法令			
第 6 回 〔講義〕 (甲斐)	到達目標	1. 人々の健康を守る医療従事者や機関に関する法規について理解する。	テキスト①		
	授業予定	薬務法について説明する。 1. 薬事一般 2. 人等の組織を用いた医療関連 3. 薬害被害者の救済など 4. 麻薬・毒物などの規制			
第 7 回 〔講義〕 (甲斐)	到達目標	1. 人々の健康を守る医療従事者や機関に関する法規について理解する。	テキスト①		
	授業予定	社会保険法について説明する。 1. 医療・介護の費用保障 2. 年金			

第 8 回 〔講義〕 (甲斐)	到達目標	1. 人々の健康を守る医療従事者や機関に関する法規について理解する。	テキスト①	
	授業予定	福祉法について説明する。 1. 福祉の基盤 2. 児童分野 3. 高齢分野 4. 障害分野 5. 手当		
第 9 回 〔講義〕 (甲斐)	到達目標	1. 人々の健康を守る医療従事者や機関に関する法規について理解する。	テキスト①	
	授業予定	労働法と社会基盤整備について説明する。 1. 労働法 2. 社会基盤整備など		
第 10 回 〔講義〕 (甲斐)	到達目標	1. 人々の健康を守る医療従事者や機関に関する法規について理解する。	テキスト①	
	授業予定	環境法について説明する。 1. 環境保全の基本法令 2. 公害防止の法令 3. 自然保護の法令		
第 11 回 〔講義〕 (清岡)	到達目標	1. 保健師助産師看護師法を学ぶ目的について理解する。 2. 保健師助産師看護師法の変遷について理解する。 3. 保健師助産師看護師法改正の経緯について理解する。 4. 看護師の法的な業務範囲及び保助看法の違反行為について理解する。	看護六法、 保助看法の 60年を振り返る(日本看護協会) 看護六法第三篇	保助看法総則から雑則まで通読しておき、科目目標に関するところは、付箋をしておく
	授業予定	1. 看護業務について法的根拠に基づいて説明する。 2. 看護業務の法的思考力を身につける学び方について解説する。 3. 看護職に必要な試験と資格制度、看護職の免許取得と業務等について、保助看法で解説する。 4. 看護師の法的な業務範囲及び保助看法の違反行為について説明する。 5. 医師と看護師の役割分担の国際比較：フランス		
第 12 回 〔講義〕 (清岡)	到達目標	1. 看護師の注意義務と責任について理解する。 2. 看護業務と守秘義務について理解する。 3. 看護事故の法的責任について理解する。	保助看法第 10条、第 42・43条、 31条	療養上の世話と診療の補助について日常の看護業務を関連付けてみる。
	授業予定	1. 看護師の注意義務と責任について保健師助産師看護師法から説明する。 2. 看護業務と守秘義務について説明する。 3. 看護事故の法的責任について説明する。 ①医療事故とは ②看護事故の法的責任とは ③民事上の責任 ④刑事上の責任 ⑤行政上の責任		
第 13 回 〔講義〕 (清岡)	到達目標	1. 看護師の注意義務と責任について保健師助産師看護師法から説明する。 2. 医療安全の確保と医療事故との関連について理解する。 3. 看護事故の法的責任と医療事故後の看護師免許について理解する。	看護六法、 医療法、他 資料	看護学生として実践できるリスクマネジメントについて考える。
	授業予定	1. 専門職業人として、法を守る意味について考えることの必要性について解説する。 2. 医療安全の確保と医療事故との関連について説明する。 3. 看護事故の法的責任と医療事故後の看護師免許等について保助看法で解説する。		
第 14 回	到達目標	1. 医療法、医師法、臓器の移植、未受精卵凍結等に関する	看護六法	特定医行為の法的背

〔講義〕 (清岡)		法律について理解する。 2. 特定行為と法的看護業務との関係について理解する。 3. 看護師等の人材確保の促進に関する法律の目的、基本方針看護師等、ナースセンターについて説明できる。		景を学習し、今後どのように発展していくのか創造しておく。 医療法で定義されている用語を、整理しておく。 看護関係労働支援について考えてみる。
	授業予定	1. 病院等の定義、医師の業務、法律からみた臓器移植などについて解説する。 2. 特定医行為について解説する。 3. 看護職の働き方と看護師の支援対策、ナースセンターの活用について解説する。		
第 15 回		まとめ 終講試験(50分)	講義で使用したテキスト・配布資料	国家試験問題は完全制覇しておく。特に解説を理解しておくこと。その他、看護業務に直接関連する法規は重点学習しておく。
成績評価の基準と方法		基準 : 履修規程第 28 条に規定する評価基準に準ずる。 方法 : 終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	①看護六法 令和 4 年版：新日本法規 ②系統看護学講座 健康支援と社会保障制度〔4〕看護関係法令：医学書院		
	参考図書	②看護師の注意義務と責任：編著：加藤済仁		
	その他	医療事故関連の事例		
授業以外の学習方法		①日本国憲法と国民の義務や権利について学習。履修にあたっては、法律として学ぶだけでなく、なぜこのような内容になっているのか、看護とどういう関係にあるのか、看護の専門領域で学んだことや、看護実習での経験、さらに書籍、インターネット・テレビ・新聞等で関連づけて理解する		
履修上の留意点		本授業は、看護職として重要な知識です。看護職として業務に従事する基準となるものです。臨地実習では、看護業務について法的根拠に基づいて説明できるよう学習してください。		

